

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 経営学部 経営学科

| | |
|--|----|
| 1. <養成する人材像が学問領域と照らして不十分> 設置の趣旨の養成する人材像の説明で、学問領域である「経営学」に関する内容が十分に反映されていないため、例えば、資料として示されている「養成する人材像と教育課程の編成図」にある「ビジネスシーンで活躍できる人材を育成する」という記載を追加するなど、経営学分野である必要性が明確に分かるよう改めること。また、その際3つのポリシーとも整合させること。（是正事項） | 1 |
| 2. <学生確保の見通しが不十分> 学生確保の見通しについて以下の観点の不十分であるため、改めること。 (1) 資料において、例えば高校生へのアンケートで「経営学部を受験したい」という回答が349人であり、入学したいという回答は199人となっている。また、当該学部が設置される地域には類似分野の学部が設置されている中で中長期的に学生確保ができるか不明確であるため、入学定員数の設定の妥当性も含め客観的根拠を示す説得力を持つ資料を提示すること。また、既存学科の定員充足率の推移も含め、想定される競合大学の選定基準及びその志願者動向から読み取れる結果についての説明が不明確であるため、合理的に説明すること。（是正事項） | 4 |
| (2) それら資料から学生確保の見通しを総合的に判断し、定員充足を実現できることを総括的に説明した資料を追加すること。（是正事項） | 13 |
| 3. <入試科目がアドミッション・ポリシー等と不整合> 入試科目について以下の観点の不整合であるため、適切に改めるか説明すること。 (1) アドミッション・ポリシーに「高等学校で履修する教科・科目を幅広く履修し」とあるが、入試区分によっては国語や英語などといった主要科目が必須ではないため、どのように評価するのか明確に説明すること。（是正事項） | 16 |
| (2) カリキュラム・ポリシーに学びの分野の一つとして記載のある「グローバル・マネジメント・スタディーズ」分野に関して、当該分野を目指す学生には英語力が重要と考えられるが、入試区分によっては英語が必須ではないため、必要とされる英語力の水準及びその入試時の評価方法について、合理的に説明すること。（是正事項） | 18 |
| 4. <専門基礎科目・専門教育科目において必修科目が不十分>□ 専門基礎科目及び専門教育科目において、必修科目が英語や演習のみであり、基礎から応用へつながる専門教育の学びの体系が不明確である。必修科目が少ない点について、養成する人材像や3つのポリシーと関連付けて、理由を合理的に説明すること。（是正事項） | 21 |
| 5. <専門教育科目の履修モデルが不明確>□ 以下の観点について、是正すること。 (1) 専門教育科目において3つのスタディーズのいずれかに軸足を置いた授業科目を履修するとあるが、スタディーズの開講科目数に対して各分野から取得すべき単位数が相対的に少なく、当該履修方式の目的や妥当性が不明確であるため、3分野の編成や位置付けについて、養成する人材像や3つのポリシーとも照らして合理的に説明すること。（是正事項） | 30 |
| (2) 3つのスタディーズについて、履修者に偏りが生じた場合、どのように大学として対応するのか明らかとすること。（是正事項） | 33 |

6. <実践学習の組織体制が不明確>□

実践活動を通じた学びを重視しているが、該当する授業科目の専任教員は1名配置されているのみであり指導體制として十分ではない。また、支援組織として「実践学習センター」が示されているが、効果的な実践学習を担保する組織体制や手続が不明確であるため、指導方法や単位認定方法の詳細（評価者や評価方法）について、具体的に説明すること。特に、実践学習センターと科目担当の専任教員の配置における関係性なども含めて、学習支援や、担当教員の体制を明らかとすること。（是正事項）

..... 34

7. <大学水準の教育内容か疑義>

授業科目の概要において「大学生活入門」「女性のためのライフプランニング」「就活リテラシー」の各科目の説明があるが、大学教育として十分な水準にあるか不明確であるため、例えば基礎理論の学習後に実践教育を実施するといった体系的な学びであることを明確にするなど、単位付与に値する講義内容であることを具体的に説明すること。（是正事項）

..... 39

8. <留学生の受入れ方針等が不明>

入学者選抜の概要で外国人留学生入試について記載があるが、方針等が不明確であるため、例えば日本語能力試験等の日本語の要件がどの水準に設定されているのか、また入学後の学修支援等が適切に構想されているのか、具体的に明らかにすること。（是正事項）

..... 47

9. <共通教育科目の社会科学科目が不十分>

共通教育科目において、社会科学科目の開講数が人文科学科目と比較して少なく内容も希薄であるため、開講数や内容を改めるか、理由を合理的に説明すること。（改善事項）

..... 49

(是正事項) 経営学部 経営学科

1. <養成する人材像が学問領域と照らして不十分>

設置の趣旨の養成する人材像の説明で、学問領域である「経営学」に関する内容が十分に反映されていないため、例えば、資料として示されている「養成する人材像と教育課程の編成図」にある「ビジネスシーンで活躍できる人材を育成する」という記載を追加するなど、経営学分野である必要性が明確に分かるよう改めること。また、その際3つのポリシーとも整合させること。

(対応)

学部の目的・養成する人材像の記述において、「経営学」の分野であることが十分に反映されていませんでしたので、その文中に「経営全般に関する専門的知識と実践力」や「国内外のビジネス社会で活躍できる人材」の記述（下線）を以下のように加筆します。

「本学部は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。」

(新旧対照表) 基本計画書 (1 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>新設学部等の目的</p> <p>本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、<u>経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、</u>どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、<u>国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、</u>“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。</p> | <p>新設学部等の目的</p> <p>本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続けることができる人材を養成し、<u>“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。</u></p> |

(新旧対照表) 学則 (3 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>第5条の2</p> <p>9 経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、<u>経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、</u>どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、<u>国内外</u></p> | <p>第5条の2</p> <p>9 経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続けることができる人材を養成し、<u>“しなやかな女性キャリ</u></p> |

| 新 | 旧 |
|--|---------------------|
| のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。 | ア”の実現に貢献することを目的とする。 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (3 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>1-2 設置の趣旨</p> <p>本学部は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、<u>経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的としている。</u></p> | <p>1-2 設置の趣旨</p> <p>本学部は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続けることができる人材を養成し、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的としている。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (7 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>1-4 養成する人材像</p> <p>こうした観点に立ち、本学部は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、<u>経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。</u></p> | <p>1-4 養成する人材像</p> <p>こうした観点に立ち、本学部は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続けることができる人材を養成し、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (9 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>2-2 本学部の特色</p> <p>本学部が目指すのは、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、<u>経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することである。</u></p> | <p>2-2 本学部の特色</p> <p>本学部が目指すのは、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続けることができる人材を養成し、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することである。</p> |

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書類 (9 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(2) 人材需要の動向等社会の要請</p> <p>①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)</p> <p>本学部は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、<u>経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、</u>どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、<u>国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、</u>“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的としている。</p> | <p>(2) 人材需要の動向等社会の要請</p> <p>①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)</p> <p>本学部は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続けることができる人材を養成し、<u>“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的としている。</u></p> |

2. <学生確保の見通しが不十分>

学生確保の見通しについて以下の観点の不十分であるため、改めること。

(1) 資料において、例えば高校生へのアンケートで「経営学部を受験したい」という回答が349人であり、入学したいという回答は199人となっている。また、当該学部が設置される地域には類似分野の学部が設置されている中で中長期的に学生確保ができるか不明確であるため、入学定員数の設定の妥当性も含め客観的根拠を示す説得性を持つ資料を提示すること。また、既存学科の定員充足率の推移も含め、想定される競合大学の選定基準及びその志願者動向から読み取れる結果についての説明が不明確であるため、合理的に説明すること。

(2) それら資料から学生確保の見通しを総合的に判断し、定員充足を実現できることを総括的に説明した資料を追加すること。

(対応)

(1) に対する回答

○入学定員数の設定の妥当性も含めた客観的根拠について

①高校生に対する受験・入学意向アンケート調査結果からの学生確保の見通し

今回実施した高校生アンケート調査では、本学の設置圏域で学生確保の基盤とする兵庫県・大阪府の47校（附属高校を含む）のみで実施しました。その結果は、入学定員200人を上回る378人の生徒が、本学学部への入学意向を示しています。（「入学したい」229人、「併願先の結果によって入学したい」149人の合計）。このうち本学附属高校（入学希望30人）を除く合計46校の結果としては、348人が本学部への入学意向を示しています（「入学したい」199人、「併願先の結果によって入学したい」149人。別途「受験したい」とし入学意向について回答しなかった者が1人おります）。

なお、高校生アンケート調査の具体的な実施方法としては、本学部の概要（特色、養成する人材像、アクセス、学費、競合校等を含む）を平成30年度時点の高校2年生（令和2年度進学予定者）の女子に提示し、受験意向について確認した上で、具体的な入学意向（専願または併願）について回答を求めました。そのため、回答者は本学部の設置構想を見た上で判断しており、明確な受験意思、入学意思が得られております。

②全国の私立大学経営学部の志願・入学者動向

本学は開学して70年、全国最大規模の女子大学として、一貫して社会に役立つ女性の育成を目指し、女性の社会進出を支えてきましたが、女性活躍推進の取組みがこれまで以上に求められる今日、経営学部設置によって、ビジネス社会に求められる女性を育成・輩出することは、女子大学としての責務であると考えます。

そのなかで、商・経営分野における志願者のニーズの高まりは明らかで、全国的に見ても志願者数が増加し、志願倍率が高まっています。平成26年度～平成30年度の5年間、若干の増減はあるものの全国で概ね約80の私立大学が「経営学部」を設けており、入学定員合計は約25,000人前後、1大学平均の入学定員は約310人であり、それに対して志願者合計は、平成26年度188,841人（志願倍率7.5倍）、平成27年度193,204人（同7.8倍）、平成28年度212,639人（同8.4倍）、平成29年度239,665人（同9.3倍）、平成30年度268,888人（同10.6倍）と上昇傾向であります。また、入学定員充足率につきましても101.65%～106.32%と極めて高い水準で推移しています。18歳人口の減少期、また私立大学の約4割が定員未充足と言われる今日において安定した志願者数の確保と定員充足の状況を維持しています。言い換えれば、全国で経営学部への志願者は増加しているにも関わらず、多くの入学希望者に対応できていない状況がうかがえます。

【「学生確保の見通し等を記載した書類」の資料6「私立大学の経営学部の志願者・入学者動向」】

③大学進学対象となる女子数の推移予測（令和2～16年度）

中長期的な学生確保の見通しにつきましては、本学部を設置する令和2年度から令和16年度までの15年間の大学進学対象となる女子数推移予測として、平成27年度国勢調査結果を参考に分析を行いました。このデータを用いましたのは、学校基本調査で公表される高校生人数は全日制・定時制高校の在学者数を基としているのに対し、国勢調査では各都道府県市町村において住民登録等を行う者が年齢別に算出されております。そのため、国勢調査の地域ごとの人数には、通信制・単位制高校通学者、県外高校への通学者、就労者等を含みますが、長期的な少子化進展の規模や傾向をさまざまな観点から考察する上では有効と判断しました。本学部を設置する令和2年度は、大学進学時期を迎える者（18歳人口）は男女合計では全国で1,168,566人であるのに対し、開設15年目の令和16年度は957,190人で人数比は81.9%となる見込みで、概ね2割減となる予測です。さらに、本学部を設置する本学中央キャンパスは、兵庫県西宮市に所在しており、阪神電鉄の鳴尾駅から徒歩7分の立地で、神戸三宮駅・大阪梅田駅からキャンパスまで30分圏内の極めて通学至便な立地にあります。神戸三宮駅・大阪梅田駅間を結ぶ阪神電鉄は、日本屈指の都市圏である阪神地域（神戸市、芦屋市、西宮市、尼崎市、大阪市）を東西に連ねており、本学の学生は兵庫県・大阪府の中でも、特に阪神地域在住の者が中心となります。この阪神地域の女子のみを抽出すると、令和2年度に大学進学時期を迎える者は21,098人であるのに対し、令和16年度は19,633人で人数比は93.1%との予測となっており、全国的平均に比べ、その減少率は小幅に留まることから、学生募集を有利に進めることができます。【資料1-1】

④本学の既存学科の定員充足率の推移等

本学での平成27年度から令和元年度の5年間における志願者数の平均は19,896人、入学定員に対する志願倍率の平均は11.05倍（平成27年度は18,278人・10.24倍、平成28年度は20,637人・11.56倍、平成29年度は20,598人・11.54倍、平成30年度は19,708人・11.04倍、令和元年度は20,260人・10.86倍）となっており、安定した志願者数・志願倍率を確保しています。また入学定員の充足状況につきましても、平成27年度から令和元年度の5年間における入学定員充足率の平均は1.02倍（平成27年度1.09倍、平成28年度1.09倍、平成29年度1.05倍、平成30年度0.90倍、令和元年度1.02倍）であり、高い志願倍率を維持しながらも適切な定員管理を行っています。

【資料8】

⑤経営学部の入学定員設定の考え方

本学で現在開設する7学部14学科（入学定員合計1,865人）のうち、200人を超える入学定員を有する学科は4学科（英語文化学科、教育学科、食物栄養学科及び薬学科）で、その入学定員合計は850人となり、大学入学定員合計の45.58%を占めます。次に入学定員が150人を超え199人までの学科は5学科（日本語日本文学科、心理・社会福祉学科、健康・スポーツ科学科、生活環境学科及び情報メディア学科）で、その入学定員合計は805人、大学入学定員合計の43.16%です。また入学定員が100人未満の学科は5学科（建築学科、演奏学科、応用音楽学科、健康生命薬科学科及び看護学科）で、その入学定員合計は210人、大学入学定員合計の11.26%となっており、経営学部の入学定員を250～300人程度にするのが妥当であるとも思いますが、中長期的かつ確実な定員充足と学生の質の確保を図っていくために、それよりも少ない200人の定員を設定しました。

また既に設置認可申請書の「学生確保の見通し等について記載した書類」において説明しておりますとおり、兵庫県をはじめとする設置圏域（大阪府、京都府、奈良県）の高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況、大学の経営・商学系全般における女子入学者数の状況、類似学部など想定される競合大学の設置状況や志願者動向及び充足状況、本学既設学部の志願状況や充足状況を踏まえるとともに、さらには、兵庫県・大阪府に所在する高等学校の在校生に対する進学需要調査の結果、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある企業等あるいは経営学部卒業生の採用が見込まれる企業等を対象とした人材需要調査の結果などを総合的に勘案した結果の入学定員設定であり、大学として過剰な人数の設定ではないと判断しております。

○想定される競合大学の選定基準及びその志願者動向から読み取れる結果について

関西での主要私立大学に、関西学院大学、関西大学、同志社大学、立命館大学（いわゆる関関同立）、京都産業大学、近畿大学、甲南大学、龍谷大学（いわゆる産近甲龍）の8大学があります。これらの8大学には、商・経営学部を開設していることからこれらの大学を競合大学として選定しました。その理由の一つには、8大学とも規模が大きく、しかも女子学生も多数受け入れている総合大学であるからです。本学が女子大学として、「女子のみを受入れる」ことから、是非ともこれらの大学に志願・受験する女子生徒の新たな進路先（志願・受験先・入学）の一つに加わることができると考えており、これら共学大学と肩を並べるポジションに並ぶことができると考えております。

この8大学（関西学院、関西、同志社、立命館、京都産業、近畿、甲南、龍谷）の商・経営学部における平成30年度の入学定員・志願者数・合格者数・入学者総数・女子入学者数及び女子割合【資料6-2】、平成30年5月1日時点の収容定員及びその充足状況【資料6-3】は、以下のとおりです。

- ・関西学院大学商学部は、入学定員650人に対し入学志願者は5,378人で、志願倍率は8.27倍。平成30年5月1日時点の収容定員2,600人に対し在籍学生数は2,838人で収容定員充足率は109.2%、うち43.2%にあたる1,229人が女子学生であります。
- ・関西大学商学部は、入学定員726人に対し入学志願者は9,367人で、志願倍率は12.90倍。平成30年5月1日時点の収容定員2,904人に対し在籍学生数は3,172人で収容定員充足率は109.2%、うち46.7%にあたる1,480人が女子学生であります。
- ・同志社大学商学部は、入学定員893人に対し入学志願者数は6,226人で、志願倍率は6.97倍。平成30年5月1日時点の収容定員3,400人に対し在籍学生数は3,714人で収容定員充足率は109.2%、うち42.4%にあたる1,574人が女子学生であります。
- ・立命館大学経営学部は、入学定員825人に対し入学志願者は10,395人で、志願倍率は12.60倍。平成30年5月1日時点の収容定員3,300人に対し在籍学生数は3,495人で収容定員充足率は105.9%、うち37.0%にあたる1,293人が女子学生であります。
- ・京都産業大学経営学部は、入学定員610人に対し入学志願者数は10,368人で、志願倍率は17.00倍。平成30年5月1日時点の収容定員2,470人に対し在籍学生数は2,639人で収容定員充足率は106.8%、うち30.7%にあたる809人が女子学生であります。
- ・近畿大学経営学部は、入学定員1,180人に対し入学志願者は36,226人で、志願倍率は30.70倍。平成30年5月1日時点の収容定員4,720人に対し在籍学生数は4,948人で収容定員充足率は104.8%、うち33.4%にあたる1,653人が女子学生であります。
- ・甲南大学経営学部は、入学定員345人に対し入学志願者は4,055人で、志願倍率は11.75倍。平成30年5月1日時点の収容定員1,380人に対し在籍学生数は1,687人で収容定員充足率は122.2%、うち42.4%にあたる715人が女子学生であります。
- ・龍谷大学経営学部は、入学定員493人に対し入学志願者は8,620人で、志願倍率は17.48倍。平成30年5月1日時点の収容定員1,982人に対し在籍学生数は2,103人で収容定員充足率は106.1%、うち40.0%にあたる842人が女子学生であります。

これら8大学の商・経営学部の平成30年度の入学定員・入学者等の状況や収容定員充足の状況から、特に合計は5,722人（1大学平均715人）に対し、入学志願者数合計は90,635人（1大学平均11,329人）で15倍以上の志願者を集めています。また、入学者総数5,659人（1大学平均707人）のうち、女子入学者数合計は全体の40.5%の2,291人で、1大学平均では286人の女子が入学していることとなります。このことから、入学者における割合と同様、女子志願者も4割程度としますと、この8大学だけでも約36,000人の女子志願者が存在することとなりますが、実際の入学者合計は前述の2,291人であることから、志望動機の高い女子生徒にとって本学部（入学定員200人）は十分な受け皿になり得ると考えています。

- 資料1-2 大学進学対象となる女子数 推移予測（令和2年度～令和16年度）
- 資料7-2 関西主要私立大学における商・経営学部の入学定員・入学者等の状況（平成30年度）
- 資料7-3 関西主要私立大学における商・経営学部の収容定員充足の状況（平成30年度）
- 資料8 武庫川女子大学への志願・受験・合格・入学者者数（直近5年）

(資料1-2) 大学進学対象となる女子数 推移予測 (令和2年度～令和16年度)

| 大学進学年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 | 令和8年度 | 令和9年度 | 令和10年度 | 令和11年度 | 令和12年度 | 令和13年度 | 令和14年度 | 令和15年度 | 令和16年度 | 減少率 (R2→R16) |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|-----------------|
| 全国 | 1,168,566 | 1,152,224 | 1,118,555 | 1,098,898 | 1,061,074 | 1,059,128 | 1,066,954 | 1,075,000 | 1,054,736 | 1,043,969 | 1,040,723 | 1,012,766 | 1,006,691 | 970,336 | 957,190 | 81.9% |
| 大阪府 | 82,316 | 80,266 | 77,363 | 75,827 | 72,858 | 72,405 | 72,985 | 73,435 | 71,881 | 71,130 | 70,907 | 69,777 | 68,658 | 66,791 | 66,512 | 80.8% |
| 兵庫県 | 52,879 | 51,834 | 50,615 | 49,429 | 47,695 | 47,342 | 47,620 | 48,282 | 46,823 | 46,149 | 46,279 | 44,800 | 43,830 | 42,018 | 41,276 | 78.1% |
| 合計 (大阪府・兵庫県) | 135,195 | 132,100 | 127,978 | 125,256 | 120,553 | 119,747 | 120,605 | 121,717 | 118,704 | 117,279 | 117,186 | 114,577 | 112,488 | 108,809 | 107,788 | 79.7% |
| 全国 | 569,313 | 561,721 | 545,320 | 536,997 | 517,942 | 517,243 | 520,353 | 524,514 | 514,398 | 508,688 | 507,489 | 494,877 | 492,351 | 473,524 | 468,544 | 82.3% |
| 大阪府 | 40,151 | 38,973 | 37,767 | 37,284 | 35,426 | 35,342 | 35,910 | 35,557 | 35,081 | 34,627 | 34,864 | 34,015 | 33,715 | 32,830 | 32,715 | 81.5% |
| 兵庫県 | 25,741 | 25,340 | 24,603 | 24,090 | 23,289 | 23,183 | 23,088 | 23,638 | 22,989 | 22,549 | 22,628 | 21,745 | 21,518 | 20,601 | 20,194 | 78.5% |
| 合計 (大阪府・兵庫県) | 65,892 | 64,313 | 62,370 | 61,374 | 58,715 | 58,525 | 58,998 | 59,195 | 58,070 | 57,176 | 57,492 | 55,760 | 55,233 | 53,431 | 52,909 | 80.3% |
| 大阪府 | 10,220 | 9,831 | 9,673 | 9,455 | 9,024 | 8,998 | 9,384 | 9,543 | 9,341 | 9,382 | 9,649 | 9,607 | 9,958 | 10,006 | 10,164 | 99.5% |
| 神戸市 | 6,404 | 6,561 | 6,434 | 6,196 | 6,238 | 6,069 | 6,068 | 6,168 | 5,989 | 6,051 | 6,008 | 5,680 | 5,630 | 5,508 | 5,500 | 85.9% |
| 尼崎市 | 1,720 | 1,726 | 1,686 | 1,628 | 1,584 | 1,567 | 1,607 | 1,704 | 1,653 | 1,620 | 1,598 | 1,591 | 1,667 | 1,547 | 1,696 | 98.6% |
| 西宮市 | 2,309 | 2,308 | 2,335 | 2,231 | 2,177 | 2,120 | 2,224 | 2,230 | 2,122 | 2,059 | 2,013 | 2,078 | 1,971 | 1,992 | 1,942 | 84.1% |
| 芦屋市 | 445 | 423 | 411 | 443 | 415 | 441 | 415 | 427 | 408 | 437 | 396 | 377 | 381 | 379 | 331 | 74.4% |
| 合計(阪神地域) | 21,098 | 20,849 | 20,539 | 19,953 | 19,438 | 19,195 | 19,698 | 20,072 | 19,513 | 19,549 | 19,664 | 19,333 | 19,607 | 19,432 | 19,633 | 93.1% |

※平成27年度 国勢調査結果に基づく。

(資料7-2) 関西主要私立大学における商・経営学部への入学定員・入学者等の状況(平成30年度)

| 番号 | 所在地 | 大学名 | 学部名 | 入学定員 | 入学志願者数 | 志願倍率 | 合格者数 | 入学者総数 | 女子入学者数 | 女子割合 |
|-------|-----|--------|-----------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|
| 1 | 兵庫県 | 関西学院大学 | 商学部 | 650 | 5,378 | 8.27 | 1,219 | 614 | 291 | 47.4% |
| 2 | 大阪府 | 関西大学 | 商学部 | 726 | 9,367 | 12.90 | 1,616 | 804 | 347 | 43.2% |
| 3 | 京都府 | 同志社大学 | 商学部 | 893 | 6,226 | 6.97 | 1,620 | 897 | 384 | 42.8% |
| 4 | 大阪府 | 立命館大学 | 経営学部 | 825 | 10,395 | 12.60 | 1,899 | 677 | 281 | 41.5% |
| 5 | 京都府 | 京都産業大学 | 経営学部 | 610 | 10,368 | 17.00 | 1,594 | 592 | 197 | 33.3% |
| 6 | 大阪府 | 近畿大学 | 経営学部(昼間主) | 1,180 | 36,226 | 30.70 | 4,487 | 1,157 | 401 | 34.7% |
| 7 | 兵庫県 | 甲南大学 | 経営学部 | 345 | 4,055 | 11.75 | 819 | 423 | 182 | 43.0% |
| 8 | 京都府 | 龍谷大学 | 経営学部 | 493 | 8,620 | 17.48 | 1,253 | 495 | 208 | 42.0% |
| 8大学合計 | | | | 5,722 | 90,635 | 15.84 | 14,507 | 5,659 | 2,291 | 40.5% |
| 1大学平均 | | | | 715 | 11,329 | 15.84 | 1,813 | 707 | 286 | 40.5% |

※旺文社「蛭雪時代 特別編集 2019(平成31)年度用 大学の真の実力 情報公開BOOK」より

※2018年度実績に基づく数値

※入学志願者数は各学部で実施したすべての1年次入学試験での合計数

【資料8：武庫川女子大学への志願・受験・合格・入学者数(直近5年)】

| 年度 | 学部 | 入学定員 (A) | 志願者(B) | 志願倍率 (B)/(A) | 受験者(C) | 合格者(D) | 受験倍率 (C)/(D) | 入学者 | 定員超過率 |
|----------------|------------|-------------|--------|-----------------|--------|--------|-----------------|-------|-------|
| 平成 27 年度 | 文学部 | 735 | 7,466 | 10.16 | 7,065 | 2,349 | 3.01 | 821 | 1.11 |
| | 健康・スポーツ科学部 | 150 | 1,441 | 9.61 | 1,386 | 435 | 3.19 | 176 | 1.17 |
| | 生活環境学部 | 520 | 6,017 | 11.57 | 5,763 | 1,464 | 3.94 | 579 | 1.11 |
| | 音楽学部 | 50 | 143 | 2.86 | 135 | 112 | 1.21 | 48 | 0.96 |
| | 薬学部(6年制) | 210 | 2,184 | 10.40 | 2,049 | 504 | 4.07 | 206 | 0.98 |
| | 薬学部(4年制) | 40 | 232 | 5.80 | 220 | 81 | 2.72 | 37 | 0.92 |
| | 看護学部 | 80 | 795 | 9.94 | 743 | 206 | 3.61 | 86 | 1.07 |
| | 計 | 1,785 | 18,278 | 10.24 | 17,361 | 5,151 | 3.37 | 1,953 | 1.09 |
| 平成 28 年度 | 文学部 | 735 | 8,021 | 10.91 | 7,039 | 2,263 | 3.11 | 823 | 1.11 |
| | 健康・スポーツ科学部 | 150 | 1,604 | 10.69 | 1,425 | 410 | 3.48 | 169 | 1.12 |
| | 生活環境学部 | 520 | 7,113 | 13.68 | 6,376 | 1,492 | 4.27 | 595 | 1.14 |
| | 音楽学部 | 50 | 165 | 3.30 | 123 | 98 | 1.26 | 46 | 0.92 |
| | 薬学部(6年制) | 210 | 2,047 | 9.75 | 1,742 | 539 | 3.23 | 211 | 1.00 |
| | 薬学部(4年制) | 40 | 200 | 5.00 | 162 | 87 | 1.86 | 27 | 0.67 |
| | 看護学部 | 80 | 1,487 | 18.59 | 1,312 | 210 | 6.25 | 77 | 0.96 |
| | 計 | 1,785 | 20,637 | 11.56 | 18,179 | 5,099 | 3.57 | 1,948 | 1.09 |
| 平成 29 年度 | 文学部 | 735 | 8,277 | 11.26 | 7,221 | 2,031 | 3.56 | 774 | 1.05 |
| | 健康・スポーツ科学部 | 150 | 1,655 | 11.03 | 1,476 | 382 | 3.86 | 162 | 1.08 |
| | 生活環境学部 | 520 | 7,131 | 13.71 | 6,320 | 1,256 | 5.03 | 527 | 1.01 |
| | 音楽学部 | 50 | 221 | 4.42 | 169 | 125 | 1.35 | 53 | 1.06 |
| | 薬学部(6年制) | 210 | 1,935 | 9.21 | 1,659 | 602 | 2.76 | 227 | 1.08 |
| | 薬学部(4年制) | 40 | 295 | 7.38 | 250 | 117 | 2.14 | 53 | 1.32 |
| | 看護学部 | 80 | 1,084 | 13.55 | 930 | 273 | 3.41 | 92 | 1.15 |
| | 計 | 1,785 | 20,598 | 11.54 | 18,025 | 4,786 | 3.77 | 1,888 | 1.05 |
| 平成 30 年度 | 文学部 | 735 | 8,365 | 11.38 | 7,466 | 1,629 | 4.58 | 646 | 0.87 |
| | 健康・スポーツ科学部 | 150 | 1,379 | 9.19 | 1,219 | 321 | 3.80 | 149 | 0.99 |
| | 生活環境学部 | 520 | 6,464 | 12.43 | 5,779 | 1,110 | 5.21 | 466 | 0.89 |
| | 音楽学部 | 50 | 196 | 3.92 | 156 | 108 | 1.44 | 38 | 0.76 |
| | 薬学部(6年制) | 210 | 1,623 | 7.73 | 1,377 | 578 | 2.38 | 204 | 0.97 |
| | 薬学部(4年制) | 40 | 197 | 4.93 | 166 | 82 | 2.02 | 25 | 0.62 |
| | 看護学部 | 80 | 1,484 | 18.55 | 1,294 | 257 | 5.04 | 90 | 1.12 |
| | 計 | 1,785 | 19,708 | 11.04 | 17,457 | 4,085 | 4.27 | 1,618 | 0.90 |
| 令和 元 年度 | 文学部 | 510 | 4,876 | 9.56 | 4,234 | 1,578 | 2.68 | 567 | 0.87 |
| | 教育学部 | 240 | 3,526 | 14.69 | 3,160 | 810 | 3.90 | 218 | 0.99 |
| | 健康・スポーツ科学部 | 180 | 1,504 | 8.36 | 1,328 | 448 | 2.96 | 193 | 0.99 |
| | 生活環境学部 | 555 | 6,673 | 12.02 | 5,905 | 1,575 | 3.75 | 585 | 0.89 |
| | 音楽学部 | 50 | 237 | 4.74 | 180 | 125 | 1.44 | 50 | 0.76 |
| | 薬学部(6年制) | 210 | 1,766 | 8.41 | 1,495 | 668 | 2.24 | 196 | 0.97 |
| | 薬学部(4年制) | 40 | 194 | 4.85 | 151 | 105 | 1.44 | 34 | 0.62 |
| | 看護学部 | 80 | 1,484 | 18.55 | 1,298 | 300 | 4.33 | 74 | 1.12 |
| 計 | 1,865 | 20,260 | 10.86 | 17,751 | 5,609 | 3.16 | 1,917 | 1.02 | |
| 5年計(割合は平均値) | | 9,005 | 99,481 | 11.05 | 88,773 | 24,730 | 3.59 | 9,324 | 1.02 |

(資料7-3) 関西主要私立大学における商・経営学部の収容定員充足の状況(平成30年度)

| 番号 | 所在地 | 大学名 | 学部名 | 収容定員 | 在籍学生数 | 収容定員充足率 | 女子学生数 | 女子割合 |
|-------|-----|--------|-----------|--------|--------|---------|-------|-------|
| 1 | 兵庫県 | 関西学院大学 | 商学部 | 2,600 | 2,838 | 109.2% | 1,229 | 43.3% |
| 2 | 大阪府 | 関西大学 | 商学部 | 2,904 | 3,172 | 109.2% | 1,480 | 46.7% |
| 3 | 京都府 | 同志社大学 | 商学部 | 3,400 | 3,714 | 109.2% | 1,574 | 42.4% |
| 4 | 大阪府 | 立命館大学 | 経営学部 | 3,300 | 3,495 | 105.9% | 1,293 | 37.0% |
| 5 | 京都府 | 京都産業大学 | 経営学部 | 2,470 | 2,639 | 106.8% | 809 | 30.7% |
| 6 | 大阪府 | 近畿大学 | 経営学部(昼間主) | 4,720 | 4,948 | 104.8% | 1,653 | 33.4% |
| 7 | 兵庫県 | 甲南大学 | 経営学部 | 1,380 | 1,687 | 122.2% | 715 | 42.4% |
| 8 | 京都府 | 龍谷大学 | 経営学部 | 1,982 | 2,103 | 106.1% | 842 | 40.0% |
| 8大学合計 | | | | 22,756 | 24,596 | 108.1% | 9,595 | 39.0% |
| 1大学平均 | | | | 2,845 | 3,075 | 108.1% | 1,199 | 39.0% |

※各大学ホームページ上の公表情報に基づく。いずれも2018年5月1日現在。

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書書 (3ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>1 設置圏域の高等学校及び中学校の女子の在籍者数</p> <p>平成30年度の兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の学校基本調査によると、経営学部経営学科の開設初年度に受験対象者となる兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の高等学校に在籍している2年生の女子の生徒数は78,401人、学部開設2年目に受験対象者となる兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の高等学校に在籍している1年生の女子の生徒数は78,182人となっている。さらに、学部開設3年目に受験対象者となる兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の中学校に在籍している3年生の女子の生徒数は79,165人、学部開設4年目に受験対象者となる兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の中学校に在籍している2年生の女子の生徒数は77,616人となっている。</p> <p>なお平成30年3月の兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率の平均は99.0%となっており、兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率を見ても、今後、兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の女子の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。また、本学部を設置する令和2年度から令和16年度までの15年間の大学進学対象となる女子数推移予測として、平成27年度国勢調査結果を参考に分析を行ったところ、本学部を設置する令和2年度は、大学進学時期を迎える者(18歳人口)は男女合計では全国で1,168,566人であるのに対し、開設15年目の令和16年度は957,190人で人数比は81.9%となる見込みで、概ね2割減となるものの大きな減少とは認められない。</p> <p>【資料1：設置圏域の高等学校及び中学校の女子の在籍者数 参照】</p> <p>【資料1-2：大学進学対象となる女子数 推移予測(令和2～令和16年度)参照】</p> | <p>1 設置圏域の高等学校及び中学校の女子の在籍者数</p> <p>平成30年度の兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の学校基本調査によると、経営学部経営学科の開設初年度に受験対象者となる兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の高等学校に在籍している2年生の女子の生徒数は78,401人、学部開設2年目に受験対象者となる兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の高等学校に在籍している1年生の女子の生徒数は78,182人となっている。さらに、学部開設3年目に受験対象者となる兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の中学校に在籍している3年生の女子の生徒数は79,165人、学部開設4年目に受験対象者となる兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の中学校に在籍している2年生の女子の生徒数は77,616人となっている。</p> <p>なお平成30年3月の兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率の平均は99.0%となっており、兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の中学校を卒業した女子の高等学校等への進学率を見ても、今後、兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の女子の大学受験対象者が大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しがあるものと考えられる。</p> <p>【資料1：設置圏域の高等学校及び中学校の女子の在籍者数 参照】</p> |

(新旧対照表) 学生の確保の見通し等を記載した書書 (6ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>4 想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況</p> <p>2) 近隣の競合大学における状況</p> <p>今般、設置を計画している経営学部経営学科との競合が想定される・・・(中略)・・・</p> <p>一方、競合が想定される私立大学は、関西学院大学商学部商学科(入学定員650人)、甲南大学経営学部経営学科(入学定員345人)、関西大学商学部商学科(入学定員726人)、近畿大学経営学部経営学科(入学定員585名 ※夜間含む)で、最近3年間の一般入試及びセンター併用試験を合計した状況は、平均で志願者数28,686人に対して合格者5,058人、倍率(志願者÷合格者)5.7倍となっている。またいずれも2018年度の定員充足率は100%超で、その平均は113.62%であるが、新たに同志社大学商学部(入学定員893名)、立命館大学経営学部(入学定員825名)、京都産業大学経営学部(入学定員610名)、龍谷大学経営学部(入学定員493名)も加えた8大学の商・経営学部の平成30年度の入学定員・入学者等の状況や収容定員充足の状況から、特に合計は5,722人(1大学平均715人)に対し、入学志願者数合計は90,635人(1大学平均11,329人)で15倍以上</p> | <p>4 想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況</p> <p>2) 近隣の競合大学における状況</p> <p>今般、設置を計画している経営学部経営学科との競合が想定される・・・(中略)・・・</p> <p>一方、競合が想定される私立大学は、関西学院大学商学部商学科(入学定員650人)、甲南大学経営学部経営学科(入学定員345人)、関西大学商学部商学科(入学定員726人)、近畿大学経営学部経営学科(入学定員585名 ※夜間含む)で、最近3年間の一般入試及びセンター併用試験を合計した状況は、平均で志願者数28,686人に対して合格者5,058人、倍率(志願者÷合格者)5.7倍となっている。またいずれも2018年度の定員充足率は100%超で、その平均は113.62%である。</p> <p>・・・(以下略)・・・</p> |

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>の志願者を集めている。また、入学者総数5,659人（1大学平均707人）のうち、女子入学者数合計は全体の40.5%の2,291人で、1大学平均では286人の女子が入学しており、入学者における割合と同様、女子志願者も4割程度とするとこの8大学だけでも約36,000人の女子志願者が存在することになるものの、実際の入学者合計は前述の2,291人であることから、志望動機の高い女子生徒にとって本学部（入学定員200人）は十分な受け皿になり得ると考える。・・・（以下略）・・・</p> <p>【資料7：想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況（経営学部・商学部関係）参照】</p> <p>【資料7-2：関西主要私立大学における商・経営学部の入学定員・入学者等の状況（平成30年度）参照】</p> <p>【資料7-3：関西主要私立大学における商・経営学部の収容定員充足の状況（平成30年度）参照】</p> | <p>【資料7：想定される競合大学の志願者動向と定員充足状況（経営学部・商学部関係）参照】</p> |

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書書（7ページ）

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>5 本学の既設学科における状況</p> <p>本学既設学科の直近4年（平成27～30年度）の志願者数は、文学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、音楽学部、薬学部（6年制）、薬学部（4年制）、看護学部の全学科の入学定員7,140人（平成27～30年度の入学定員合計）に対して79,221人で、入学定員に対する志願倍率は11.10倍である。なお、実質的な競争倍率である合格者数に対する受験者数の受験倍率でみても3.71倍と高い水準となっている。</p> <p>なお令和元年度、教育学部を加えた直近5年間の志願者数の平均は19,896人、入学定員に対する志願倍率の平均は11.04倍となっている。</p> <p>なお、平成27年度からの4年間の平均入学定員超過率は1.03倍に抑えられており、高水準の志願倍率、受験倍率を維持しながらも適切な定員管理を行っている。</p> <p>【資料8：武庫川女子大学への志願・受験・合格・入学者数（直近5年）参照】</p> | <p>5 本学の既設学科における状況</p> <p>本学既設学科の直近4年（平成27～30年度）の志願者数は、文学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、音楽学部、薬学部（6年制）、薬学部（4年制）、看護学部の全学科の入学定員7,140人（平成27～30年度の入学定員合計）に対して79,221人で、入学定員に対する志願倍率は11.10倍である。なお、実質的な競争倍率である合格者数に対する受験者数の受験倍率でみても3.71倍と高い水準となっている。</p> <p>なお、平成27年度からの4年間の平均入学定員超過率は1.03倍に抑えられており、高水準の志願倍率、受験倍率を維持しながらも適切な定員管理を行っている。</p> <p>【資料8：武庫川女子大学への志願・受験・合格・入学者数（直近4年）参照】</p> |

（新旧対照表）学生の確保の見通し等を記載した書書（7ページ）

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>2) 近隣の競合大学における状況</p> <p>今般、設置を計画している経営学部経営学科との競合が想定される国公立大学は、・・・（中略）・・・</p> <p>一方、競合が想定される私立大学は、関西学院大学商学部商学科（入学定員650人）、甲南大学経営学部経営学科（入学定員345人）、関西大学商学部商学科（入学定員726人）、近畿大学経営学部経営学科（入学定員585名 ※夜間含む）で、最近3年間の一般入試及びセンター併用試験を合計した状況は、平均で志願者数28,686人に対して合格者5,058人、倍率（志願者÷合格者）5.7倍となっている。またいずれも2018年度の定員充足率は100%超で、その平均は113.62%であるが、新たに同志社大学商学部（入学定員893名）、立命館大学経営学部（入学定員825名）、京都産業大学経営学部（入学定員610名）、龍谷大学経営学部（入学定員493名）も加える。</p> | <p>2) 近隣の競合大学における状況</p> <p>今般、設置を計画している経営学部経営学科との競合が想定される国公立大学は、・・・（中略）・・・</p> <p>一方、競合が想定される私立大学は、関西学院大学商学部商学科（入学定員650人）、甲南大学経営学部経営学科（入学定員345人）、関西大学商学部商学科（入学定員726人）、近畿大学経営学部経営学科（入学定員585名 ※夜間含む）で、最近3年間の一般入試及びセンター併用試験を合計した状況は、平均で志願者数28,686人に対して合格者5,058人、倍率（志願者÷合格者）5.7倍となっている。またいずれも2018年度の定員充足率は100%超で、その平均は113.62%である。</p> |

(2) に対する回答

本学部設置にあたり、学生確保の見通しについて様々な角度から検証しました。そのまとめ(総括)は以下のとおりです。

1. 社会の状況

①少子高齢化、人口減少という過去に例のない時代を迎える我が国において、様々な視点から「女性」の活躍が期待されています。

②民間企業の新卒採用担当者を対象に、「新卒に求める人材像に関するアンケート調査」を実施した結果、経営学部出身の新卒社員は、企業内でより活躍してくれる人材であるとの期待がより高いと認識されています。

2. 本学の状況

①開学70年の歴史を有し、7学部14学科を開設する全国最大規模の女子大学であります。

②入学者は、兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の高校からの生徒が約8割を占め、阪神地域から多くの学生を集めることができる大学であります。

③本学への直近過去5年間の志願者数の平均は19,896人、入学定員に対する志願倍率の平均は11.04倍と、安定した志願者数・志願倍率を維持・確保し、また入学者も適正な人数を受け入れています。

④平成29年度卒業生の就職率は99.5%と高い結果を残しています。永年にわたる教育の成果と19万人を超える卒業生の活躍とが相まって、社会から高い評価を得ているものと考えています。

3. 設置圏域の「女子」の大学等への受験対象者数、本学部への入学意向

①兵庫県、大阪府、京都府、奈良県の高等学校を卒業した女子の過去3年間の大学等進学率から、それぞれの高等学校を卒業する女子の大学受験対象者が今後も大きく減少することはなく、中長期的な学生確保の見通しに期待できます。

②本学部への入学意向を調査する高校生アンケートにおいて、兵庫県・大阪府の47校(附属高校を含む)に対して実施した結果、入学定員200人を上回る378人の生徒が、本学学部への入学意向(「入学したい」229人、「併願先の結果によって入学したい」149人の合計)を示されています。

4. 全国及び関西地域の私立大学における「経営学部」への志願者数・入学者数

①平成30年度、全国の私立大学の経営学部の開設は80学部を数え、その入学定員合計は約25,000人前後、1大学平均の入学定員は約310人です。それに対して志願者合計は、平成26年度188,841人(志願倍率7.5倍)、平成27年度193,204人(同7.8倍)、平成28年度212,639人(同8.4倍)、平成29年度239,665人(同9.3倍)、平成30年度268,888人(同10.6倍)と上昇傾向であり、入学定員充足率も101.65%~106.32%と極めて高い水準で推移しています。

②全国の私立大学の社会科学系学科の1年次に在籍する女子学生数は、概ね6万人台前半で推移しており、中長期的にも安定している。他の系統と比べても平成30年度時点で最も多く、実学志向が高まっていることが背景にあることが推察されます。

③関西地域の主要私立大学(関西学院、関西、同志社、立命館、京都産業、近畿、甲南、龍谷)の商・経営学部では、15倍以上の志願者を集めており、「女子」はその約4割を占めている。また入学者の40%前後も「女子」であり、当該分野への進学意欲が高いことがわかります。

5. 企業等からの期待

本学部の必要性や本学部を卒業した者への採用ニーズに関するアンケート調査を2,894箇所に対して実施した結果、設置構想中の「経営学部」の養成する人材について、調査全回答事業所数605箇所の84.3%にあたる510箇所が、今後の社会において「ニーズが高い」との回答があり、「採用したい」と答えた事業所は全体の53.7%にあたる325箇所、本学部の定員を上回る採用意向が示されています。

(資料0) 学生確保の見通しに関する総括資料

| |
|--|
| 全国の私立大学に「経営学部」は80学部 |
| 平成30年度全体 |
| ☆入学定員合計は25,431人、1大学平均の入学定員は約318人 |
| ☆志願者数は、268,888人、平成26年度(188,841人)から毎年増加 |
| ☆志願倍率は10.6倍と平成26年度(7.5倍)から毎年上昇、定員充足率も1.06倍 |

| |
|--|
| 関西の主要私立大学(関西学院・関西・同志社・立命館・京都産業・近畿・甲南・龍谷)の「商・経営学部」 |
| 平成30年度全体 |
| ☆入学定員合計は5,722人、1大学平均の入学定員は715人 |
| ☆志願者数は、90,635人を超え、1大学平均11,329人 |
| ☆志願倍率は15.84倍、入学定員充足率は0.99倍、収容定員充足率は1.08倍 |
| 平成30年度「女子」のみ |
| ☆入学者数は2,291人、1大学平均286人で全体の40.5%を占める |
| ☆在学者数は9,595人、1大学平均1,199人で全体の39.0%を占める |

「経営学」系の学部は志願者数が増加しており、関西の8大学においても「女子」の志願者・入学者は約4割を占めており、本学部への志願・受験の受け皿になり得る。

| |
|---|
| 大学進学対象となる女子数推移予測(令和2~16年度) |
| ☆全国の男女では、令和2年度は1,168,566人、令和16年度は957,190人(81.9%)に減少 |
| ☆全国の女子では、令和2年度は569,313人、令和16年度は468,544人(82.3%)に減少 |
| ☆阪神地域の女子では、令和2年度は21,098人、令和16年度は19,633人(93.1%)に減少 |

| | |
|---------------------------------|---|
| 阪神地域の高校卒業予定者(女子)の大学等進学状況 | |
| 兵庫県 | ☆平成30年3月卒業者の進学率は64.6%で平成28年3月卒業者より1.0ポイント上昇 |
| 大阪府 | ☆平成30年3月卒業者の進学率は61.6%で平成28年3月卒業者より1.0ポイント減少 |
| 京都府 | ☆平成30年3月卒業者の進学率は69.0%で平成28年3月卒業者より0.2ポイント上昇 |
| 奈良県 | ☆平成30年3月卒業者の進学率は61.7%で平成28年3月卒業者より1.1ポイント減少 |

| |
|------------------------------|
| 高校生への入学意向調査結果 |
| ☆入学したい：378人(附属30人含む) |
| ・合格したら入学する ：229人(附属30人含む) |
| ・併願先の結果によって入学する ：149人 |

| |
|---|
| 企業等への設置構想、採用意向調査結果 |
| ☆調査全回答事業所数605箇所の84.3%にあたる510箇所が、今後の社会において「ニーズが高い」との回答 |
| ☆「採用したい」と答えた事業所は全体の53.7%にあたる325箇所 |

18歳人口は、減少傾向にあるが、阪神地域はその減少率が緩く、大学等への進学率も多くは減少しておらず、中長期的な学生確保が見通せる。

| |
|--|
| ☆70年の歴史、7学部14学科を擁す全国最大規模の「女子大学」 ☆直近5年間の志願者数の平均は19,896人、入学定員に対する志願倍率の平均は11.04倍 ☆既存学部・学科の入学定員充足率は、直近5年間の平均が1.02倍 ☆入学者の約8割は、阪神地域(兵庫県、大阪府、京都府、奈良県)の高校卒業生 ☆就職率(対希望者)は99.5%(平成29年度卒業生) ☆卒業生数は、19万人を超え、卒業生は多方面で活躍 ☆「女子大学」にも経営学部の設置が必要 |
|--|

武庫川女子大学 経営学部 (入学定員200人)

(新旧対照表) 学生の確保等の見通し等を記載した書類 (1 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>ア 定員充足の見込み</p> <p>1 入学定員設定の考え方 経営学部経営学科の・・・(以下省略)。</p> <p>【資料0：学生確保の見通しに関する総括資料 参照】</p> | <p>ア 定員充足の見込み</p> <p>1 入学定員設定の考え方 経営学部経営学科の・・・(以下省略)。</p> |

3. <入試科目がアドミッション・ポリシー等と不整合>

入試科目について以下の観点の不整合であるため、適切に改めるか説明すること。

(1) アドミッション・ポリシーに「高等学校で履修する教科・科目を幅広く履修しとあるが、入試区分によっては国語や英語などといった主要科目が必須ではないため、どのように評価するのか明確に説明すること。

(2) カリキュラム・ポリシーに学びの分野の一つとして記載のある「グローバル・マネジメント・スタディーズ」分野に関して、当該分野を目指す学生には英語力が重要と考えられるが、入試区分によっては英語が必須ではないため、必要とされる英語力の水準及びその入試時の評価方法について、合理的に説明すること。

(対応)

(1) に対する回答

現在、高校と大学の教育を一体的に見直す「高大接続改革」。その一環として、大学入学者選抜においても「大学入試改革」が進められております。こうした流れの中、大学入試では、受験者一人ひとりの能力や経験を、学力試験だけではなく「学力の3要素」と呼ばれる①「知識・技能」②「思考力、判断力、表現力」③「主体性、多様性、協働性」の全ての側面から評価することが求められています。

本学部においても、学力の3要素をアドミッション・ポリシーに掲げており、その一つである①「知識・技能」には、「高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する者、もしくは同等の知識と技能を有する者」との記述があります。この点については、本学の入学試験時に、高等学校での学びについて記載された調査書の提出を求めていますので、それにより、高等学校で履修した教科・科目の修得状況を確認し、本学部が実施する入試科目の得点から推定する学力レベルと合わせて、本学部において学ぶ力を総合的に判定したいと考えております。

また、「学力の3要素」の③「主体性、多様性、協働性」のうち、多様性についてはアドミッション・ポリシーに含めませんでした。これは、本学が女子大学であるために、性別において偏りがあるためです。しかしながら、本学部内には可能な範囲で思考のダイバーシティを高めたいとの考えがあります。そのため、本学部が実施する入学試験の中には、国語や英語の主要科目が必須ではない試験方式が存在します。これは、数学的な思考や科学的な思考、歴史的な観点からの考察に長けた学生なども広く受け入れ、学生相互の思考パターンに多様性と刺激を与えたいと考えております。

そこで本学部では、入学試験における科目構成を補うために、入学手続きを取った入学予定者全員に、入学前の3月末までに国語（現代文のみ）と英語の2科目による「基礎学力Web調査」を実施し、大学で学ぶための学力を評価する制度を整えております。

また、「基礎学力Web調査」において基礎学力に不安のある学生には、入学後に国語（現代文のみ）と英語の2科目による「リメディアル教育」の受講を義務付け、1年生の前期に各科目を8週（90分×8回）で開講し、大学で学ぶための学力を担保しております。

また、公募制推薦入試など比較的早期に実施される入試におきましては、入学手続きを取った入学予定者全員に対して、入学手続き後すぐに国語（現代文のみ）と英語の2科目による通信制の「リメディアル教育」を義務付け、大学で学ぶための学力を担保する制度を整えております。

以上のことに関し、「設置の趣旨等を記載した書類」の「8 入学者選抜の概要」において、新たに「8-4 入学者の学力担保への取組み」の項を設け、以下の記述を加える修正を行います。

8-4 入学者の学力担保への取組み

「本学部では、入学試験における科目構成を補うために、入学手続きを取った入学予定者全員に、入学前の3月末までに国語（現代文のみ）と英語の2科目による「基礎学力Web調査」を実施し、大学で学ぶための学力を評価する制度を整えている。また、

「基礎学力Web調査」において基礎学力に不安のある学生には、入学後に国語（現代文のみ）と英語の2科目による「リメディアル教育」の受講を義務付け、1年生の前期に各科目を8週（90分×8回）で開講し、大学で学ぶための学力を担保する。また公募制推薦入試など比較的早期に実施される入試におきましては、入学手続きを取った入学予定者全員に対して、入学手続き後すぐに国語（現代文のみ）と英語の2科目による通信制の「リメディアル教育」を義務付け、大学で学ぶための学力を担保する制度を運用する。」

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（41ページ）

| 新 | 旧 |
|---|-------------|
| <p>8-4 入学者の学力担保への取組み</p> <p><u>本学部では、入学試験における科目構成を補うために、入学手続きを取った入学予定者全員に、入学前の3月末までに国語（現代文のみ）と英語の2科目による「基礎学力Web調査」を実施し、大学で学ぶための学力を評価する制度を整えている。また、「基礎学力Web調査」において基礎学力に不安のある学生には、入学後に国語（現代文のみ）と英語の2科目による「リメディアル教育」の受講を義務付け、1年生の前期に各科目を8週（90分×8回）で開講し、大学で学ぶための学力を担保する。また公募制推薦入試など比較的早期に実施される入試におきましては、入学手続きを取った入学予定者全員に対して、入学手続き後すぐに国語（現代文のみ）と英語の2科目による通信制の「リメディアル教育」を義務付け、大学で学ぶための学力を担保する制度を運用する。</u></p> | <p>（新設）</p> |

(2) に対する回答

未来の社会を創造する人材には多様な能力が求められ、その能力開発の途中段階に高校・大学での学びがあります。大学入試は大学入試時点までの多様な学習成果(ラーニング・アウトカム)を測定することですので、(1)でも述べたとおり、入学試験においては、可能な限り総合的な判断を重視いたします。

しかしながら、他方において、グローバル・マネジメント・スタディーズでは、ご推察のとおり、英語力も欠かせません。そのため、入学試験にける英語科目の成績はもとより、全入学予定者を実施する入学直前の「基礎学力Web調査」にける英語力、さらには、入学後に英語クラスの編成に用いますCASEC(英語コミュニケーション能力判定テスト)のスコアをもとに、入学時点までの学習成果について測定いたします。

また入学後については、大学における英語学習の成果について測定するため、TOEICを英語力の指標として用いております。具体的には、学部学生全員にTOEICの受験を義務づけており、MFWI(アメリカ分校)で開講されるグローバル・マネジメント・スタディーズの科目履修を希望する学生には、現地での科目履修時に600点以上の得点を求めています。この600点以上は、外国語の運用能力を言語の枠や国境を越えて同一の基準で測ることができる国際的な指標であるCEFR(外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠: Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment)の自立した言語使用者と考えられるB2段階(自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる)をもとに設定いたしました。このため、入試科目において英語を選択していなくても、履修時点でのTOEIC600点が、グローバル・マネジメント・スタディーズ科目を履修する際の目安であると考えています。

そのため、MFWIでの科目履修を希望するものの、履修時までに600点に届かない可能性のある学生には、既に本学で実施している課外での短期集中型の英語力強化プログラムを個別に用意し、履修時までの600点への到達を支援します。この英語強化プログラムには、昼休みにネイティブ講師との会話を楽しみながら英語力を向上させる

「English Plaza」、ネイティブ講師が英語のレポートなどの指導を行い、より正確で自然な英語表現を身に付ける「Writing Plaza」、主にTOEIC®Listening& Readingの対策ができる英語学習eラーニング「MELs(Mukogawa English Learning system)」、Skypeを使って海外の講師による英会話・発音・ライティング-TOEIC®Tests対策などのマンツーマンレッスンが受講できる「Skype Room」があり、担任が学生一人ひとりのベルに合わせてサポートプログラムをアレンジします。

また、MFWIでの科目を習得し、帰国した学生には、英語力維持のためのフォローアップ科目として「ビジネスライティング」と「スピーチプレゼンテーション」を用意しています。

さらには、こうした入学後のカリキュラムに加えて、募集枠は5人と少人数ですが、英語力を特に重視した本学部だけのグローバル入試(AO入試)の実施も計画しており、そこでは出願資格を英検の準一級以上、もしくはTOEIC600点以上に設定し、面接試験(英語での応答・文書作成を含む)を行う予定にしておりますので、この入試をフラッグシップとして、今後、入学時より卓越した英語力を持った学生の確保にも注力してまいります。

以上のことに関し、「設置の趣旨等を記載した書類」の「6 教育方法、履修指導方法及び卒業要件」の「6-3 授業科目履修の条件」「8-2 選抜方法と選抜体制」に「○ 第1期生(令和2年度)受入れのための実施案(出題範囲は※参照)」において、所要の記述を加える修正を行います。

6-3 授業科目履修の条件

以下に列記する授業科目を履修するためには、・・・(中略)・・・を修得しておかなければならない。

またグローバル・マネジメント・スタディーズの科目履修を希望する学生には、入試

科目において英語を受験科目に選択していなくても、MFWIでの科目履修時点でTOEIC600点以上の得点を取っている者とするが、履修時までには600点に届かない可能性のある学生には、短期集中型の英語力強化プログラムを個別に用意し、履修時までの600点への到達を支援する。この英語強化プログラムには、「English Plaza」「Writing Plaza」、「MELs(Mukogawa English Learning system)」、「Skype Room」があり、担任が学生一人ひとりのレベルに合わせてサポートプログラムをアレンジする。

8-2 選抜方法と選抜体制

入学者選抜は、文部科学省通知・・・(中略)・・・実施する。またグローバル入試(AO入試)、附属高校の推薦入試、社会人特別選抜入試及び外国人留学生入試も実施する。なおグローバル入試(AO入試)の出願資格は、英検準一級以上、もしくはTOEIC600点以上とする。

○ 第1期生(令和2年度)受入れのための実施案(出題範囲は※参照)

・グローバル入試(AO入試)

試験科目：書類審査(外部検定等による英語4技能評価を含む)・面接(英語での応答・文書作成を含む)

試験実施：10月中旬、合格発表：11月上旬

募集人員：5人

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(25ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>6-3 授業科目履修の条件</p> <p>以下に列記する授業科目を履修するためには、指定する授業科目を履修し、単位を取得しておかなければならない。</p> <p>(中略)</p> <p><u>なおグローバル・マネジメント・スタディーズの科目履修を希望する学生には、入試科目において英語を受験科目に選択していなくても、MFWIでの科目履修時点でTOEIC600点以上の得点を取っていることを目標とする。ただし、履修時までに目標の点数に届かない可能性のある学生には、短期集中型の英語力強化プログラムを個別に用意し、履修時までに到達するよう支援する。この英語強化プログラムには、「English Plaza」「Writing Plaza」、「MELs(Mukogawa English Learning system)」、「Skype Room」があり、担任が学生一人ひとりのレベルに合わせてサポートプログラムをアレンジする。</u></p> | <p>6-3 授業科目履修の条件</p> <p>以下に列記する授業科目を履修するためには、指定する授業科目を履修し、単位を取得しておかなければならない。</p> <p>(中略)</p> |

(新旧対照表)設置の趣旨等を記載した書類(39ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>8-2 選抜方法と選抜体制</p> <p>入学者選抜は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、本学が定める入学者選抜試験により実施する。本学部が求める知識、・・・(中略)・・・を実施する。また<u>グローバル入試(AO入試)、附属高校の推薦入試、社会人特別選抜入試及び外国人留学生入試も実施する。なおグローバル入試(AO入試)の出願資格は、英検準一級以上、もしくはTOEIC600点以上とする。</u></p> | <p>8-2 選抜方法と選抜体制</p> <p>入学者選抜は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、本学が定める入学者選抜試験により実施する。本学部が求める知識、・・・(中略)・・・を実施する。またAO入試、附属高校の推薦入試、社会人特別選抜入試及び外国人留学生入試も実施する。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (40ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>○第1期生(令和2年度)受入れのための実施案 (出題範囲は※参照)</p> <p>・<u>グローバル入試(A0入試)</u> 試験科目:書類審査(外部検定等による英語 4技能評価を含む)・面接(英語 での応答・文書作成を含む)</p> <p>試験実施:10月中旬、合格発表:11月上旬 募集人員:5人</p> | <p>○第1期生(平成32年度)受入れのための実施案 (出題範囲は※参照)</p> <p>・<u>A0入試(英語重視型入試)</u> 試験科目:書類審査(外部検定等による英語 4技能評価を含む)・面接</p> <p>試験実施:10月中旬、合格発表:11月上旬 募集人員:5人</p> |

4. <専門基礎科目・専門教育科目において必修科目が不十分>

専門基礎科目及び専門教育科目において、必修科目が英語や演習のみであり、基礎から応用へつながる専門教育の学びの体系が不明確である。必修科目が少ない点について、養成する人材像や3つのポリシーと関連付けて、理由を合理的に説明すること。

(対応)

本学部が目指すのは、「平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と多文化への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献する」ことです。そのため、学生が自らの学びを主体的に選択し、デザインすることが実践できるカリキュラムを構成したいと考え、多くの科目を選択科目に位置づけました。

ただし、このような主体的な学びは、必ずしもすべての学生が1年次から4年次まで直線的に進めることができるわけではないと考えています。具体的には、社会情勢の変化、経験の蓄積、新たな目標の出現など、4年間の中でも学び直しの必要に迫られる可能性は十分に想定されます。そのため、4年間の学習の中でも学び直し（学びのリデザイン）が可能になるようなカリキュラムを目指しておりました。これが必修科目の少ない主な理由です。

とはいえ、ご指摘のように、必修科目を少なくし、選択科目を多くするだけでは、学びの体系を踏まえた科目履修ができない可能性も危惧されます。そこで、学生の主体的な履修デザインをサポートする仕組みを強化することで、学生の体系的な履修を担保しようと考えました。一つは、教員による学生一人ひとりへの丁寧な履修指導を行う伴走型サポートで、あと一つは学生同士が学びの準拠集団を構成することによる共助型のサポートです。

具体的には、1・2年次にはクラス担任が、3・4年次には専門演習の担当者が、学生一人ひとりに対して、常に履修に関するアドバイスを行う伴走型サポートを実施します。また、1・2年次に初期演習と経営課題演習のクラスを構成し、3・4年次には専門演習のゼミを構成することで、個々の学生が所属するクラスやゼミが個々の学生にとって学びの準拠集団となり、学生相互による共助型のサポートが行われることで、学生一人ひとりの将来キャリアに向けた主体的で体系的な学びのデザインが実践できるようにしたいと考えました。

これは以下に抜粋しました、ディプロマ・ポリシーの3点、カリキュラム・ポリシーの2点、アドミッション・ポリシーの3点とも整合すると考えております。

<ディプロマ・ポリシー>

- ・他者と協力的な関係を構築するコミュニケーション能力を習得している。
- ・自らの暮らしを環境にあわせて柔軟にデザインするための技能を習得している。
- ・自らが目指す将来キャリアで活躍するために必要な基礎的・専門的知識を習得している。

<カリキュラム・ポリシー>

- ・大学教育へ導入を円滑にし、学びにおける準拠集団を構成するために、基礎演習を必修科目として1年次と2年次に置く。
- ・高度な学びの準拠集団を構成し、総合的な実践力を養う教育・研究の場として、「専門演習」を必修科目として3年次と4年次に置く。

<アドミッション・ポリシー>

- ・人や社会、自身が目指す将来キャリアについて、これまで習得した知識や情報をもとにして、筋道を立てて自分の考えをまとめ、それを文章や口頭で表現できる者
- ・社会的な活動に主体的に、かつ他者とコミュニケーションをとりながら協働して取り組むことのできる者
- ・経営学を中心とする本学部での学びに興味を持ち、その学びを自らの将来キャリアをデザインするための知識、技能として活用しようとする意欲を有する者

しかしながら、今回のご意見を受け止め、学生の体系的な科目履修を担保する方策をより強化する必要性を認識いたしました。

そのために、まずは本学部で学ぶための基礎固めを徹底して行うと同時に、経営学分野における基礎から応用への体系的展望を持たせ、その上で、学生が主体的に自らの学びのデザインができるように、必修科目の追加と取得すべき単位枠の変更を行います。具体的には、既に必修としておりました基礎教育科目で開講する英語2科目（「Oral Communication」「Business English I」）、情報2科目（「情報リテラシー I」「情報リテラシー II」）、「キャリアデザイン特講 I」、初期演習2科目（「初期演習 I」「初期演習 II」）、経営課題演習2科目（「経営課題演習 I」「経営課題演習 II」）、「実践へのいざない」の10科目・18単位に加え、学生にとって本学部での学びのベースとなり、かつ当該分野の科目体系が理解できるようになる専門基礎の4科目（「経営学入門」「会計入門」「マーケティング入門」「パブリックマネジメント入門」）と経営学的な思考方法を身に付ける専門基礎の1科目（「ビジネスシンキング」）の計5科目・10単位を選択科目から必修科目に変更します。このことによって、基礎教育科目の必修科目は15科目・28単位となり、専門教育科目の専門演習4科目（「専門演習 I」「専門演習 II」「専門演習 III」「専門演習 IV」）及び「卒業研究」へとつながる学びの体系性を確保します。学生が必修科目の学びの中で、基礎から応用に至る開講科目の体系を理解し、各専門科目の位置づけもきちんと展望できる力がさらに養われることとなります。

また、この措置と並行して、本学部の授業科目について科目ナンバリングを付与し分類することで、学修の段階や順序等をわかりやすく表記し、学生に対して教育課程の体系性を明示する仕組みを整えます。そうすることで、本学部の学生は、科目ナンバリングを参照しながら、教員による伴走型のサポートと学生相互の共助型サポートを受け、自己の将来キャリアに向けた専門科目の体系的選択を主体的にデザインできるようになると考えております。

以上のことに関し、基礎教育科目のうち5科目を選択科目から必修科目に変更することに伴い、「教育課程等の概要」「学則」及び「設置の趣旨等を記載した書類」において、所要の変更を行います。

(資料7-2) 科目ナンバリング

| 科目区分 | ナンバリング | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | 4年次 | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-------------------|----------------------------|--------------------|----------------------|-----------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | 前半 | 後半 | 前半 | 後半 | 前半 | 後半 | 前半 | 後半 | 前半 | 後半 | |
| 基礎教育科目 | 共通教育科目 | 英語(EN) | | | | | | | | | |
| | | 英語(EN) | Business English I (EN101) | | | | | | | | |
| | | 情報演習(IN) | 情報リテラシー I (IN101) | | | | | | | | |
| | | 基礎演習(BS) | 初期演習 I (BS101) | 情報リテラシー II (IN201) | Writing (EN311) | ビジネスライティング (EN411) | | | | | |
| | | 実践学習(PL) | 実践へのいざない (PL101) | 初期演習 II (BS201) | Reading (EN321) | スピーチプレゼンテーション (EN431) | | | | | |
| | 基礎教育科目(専門基礎)及び専門教育科目(分野別専門) | 経営学系(MG) | 経営学入門 (MG101) | 経営環境論 (MG201) | 経営管理論 (MG301) | 経営戦略論 I (MG311) | グローバル経営論 (MG401) | 新異国企業論 (MG402) | | | |
| | | 経営学系(MG) | 戦略 (MG1x) | 経営戦略入門 (MG211) | 経営戦略論 (MG221) | 経営戦略論 II (MG411) | | | | | |
| | | 経営学系(MG) | 組織 (MG2x) | 経営組織論 (MG121) | 組織行動論 (MG221) | 中小企業論 (MG321) | | | | | |
| | | 経営学系(MG) | 人事 (MG3x) | | 労使コミュニケーション論 (MG231) | | 人的資源管理論 (MG331) | | | | |
| | | 経営学系(MG) | 計画 (MG4x) | | ビジネスプラン構築論 (MG241) | | 労働経済論 (MG332) | | | | |
| 基礎教育科目(専門基礎)及び専門教育科目(分野別専門) | ファイナンス系(FI) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | |
| | | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | |
| | | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | |
| | | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | |
| | | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | ファイナンス入門 (FI101) | |
| | マーケティング系(MK) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) |
| | | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) |
| | | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) |
| | | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) |
| | | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) | マーケティング入門 (MK101) |

凡例:

必修科目 基礎教育科目 経営学系科目 英語系科目 経済学系科目 法学系科目 理学系科目 工学系科目 芸術系科目 専門科目(専攻研究)

(資料9) 履修モデル

ビジネス・デザイン・スタディーズ(ビジネス・デザイン・スタディーズ + グローカル(グローバルとパブリック)の視点)に軸足を置いた履修モデル

| 科目区分 | 履修すべき単位 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 履修単位 | | | | |
|-------------|--------------------|---------------------|-----------|--------------------|-----------------------------|---------------------|----------------|----------|------------|-------|----|----|---|-----|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | | |
| 共通教育科目 | 基礎教育科目群 | 2 | | | 教養としての法律 | 2 | | 環境心理学入門 | 2 | 4 | | | | |
| | 社会科学科目 | | | | | | | | | | | | | |
| | 自然科学科目 | | | | | | | | | | | | | |
| | 国際理解科目 | 2 | | | | | | | | 2 | | | | |
| | 現代トピック科目 | | 2 | | | | | | | | | | | |
| | ジェンダー科目 | | | | | | アジアの中のジェンダー | 2 | | | | | | |
| | キャリアデザイン科目 | 2 | | | | | | | | 2 | | | | |
| | 言語情報科目群 | 4 | | | English for Careers | 1 | | | | 5 | | | | |
| | 言語リテラシー科目 | | 1 | | Career Workshop | | | | | | | | | |
| | 情報リテラシー科目 | | | | Reading & Critical Thinking | 1 | | | | | | | | |
| 健康・スポーツ科目群 | 2 | | | データサイエンス入門 | 2 | | | | 3 | | | | | |
| 健康・スポーツ科学科目 | | | | | | | | | | | | | | |
| スポーツ実技科目 | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 初年次ゼミ | 学び発見ゼミ | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎教育科目 | 英語 | 4 | | Oral Communication | 2 | Business English II | 2 | | | 6 | | | | |
| | Business English I | | 2 | | | | | | | | | | | |
| | 情報演習 | 4 | | 情報リテラシー I | 2 | | | | | 4 | | | | |
| | 情報リテラシー II | | 2 | | | | | | | | | | | |
| | 専門基礎 | キャリアデザイン特講 I | 2 | | 経営戦略論入門 | 2 | | | | | | | | |
| | | 経営学入門 | 2 | | 経営環境論 | 2 | | | | | | | | |
| | | 経営組織論 | 2 | | 組織行動論 | | 2 | | | | | | | |
| | | 会計入門 | 2 | | 企業情報システム I | 2 | | | | | | | | |
| | | マーケティング入門 | 2 | | 企業財務論 | 2 | | | | | | | | |
| | | マーケティングリサーチ | 2 | | 商業簿記 II | 2 | | | | | | | | |
| | | パブリックマネジメント入門 | 2 | | デジタルマーケティング | 2 | | | | | | | | |
| | | 商業簿記 I | 2 | | 消費者思考の製品開発 | | 2 | | | | | | | |
| | ビジネスシンキング | 2 | | | | | | | | | | | | |
| | 基礎演習 | 6 | | 初期演習 I | 1 | 経営課題演習 I | 2 | | | 6 | | | | |
| 初期演習 II | | 1 | 経営課題演習 II | | 2 | | | | | | | | | |
| 実践科目 | 6 | | 実践へのいざない | 2 | フィールドワーク | 1 | インターンシップ | 2 | | 6 | | | | |
| サービスラーニング | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 専門教育科目 | ビジネス・デザイン・スタディーズ | 12 | | | 経営管理論 | 2 | 経営戦略論 I | 2 | 経営戦略論 II | 2 | 24 | | | |
| | | | | | 流通小売論 | 2 | マーケティング戦略論 | 2 | ベンチャービジネス論 | 2 | | | | |
| | | | | | | | ビジネスモデル論 | 2 | 商品企画論 | 2 | | | | |
| | | | | | | | 対人関係論 | 2 | | | | | | |
| | | | | | | | AI戦略論 | | 2 | | | | | |
| | | | | | | | 広告・セールスプロモーション | 2 | | | | | | |
| | | | | | | | 人的資源管理論 | 2 | | | | | | |
| | | | | | | | グローバル経営論 | 2 | 企業の投資意思決定 | 2 | | | | |
| | 分野別専門 | グローバル・マネジメント・スタディーズ | 6 | | | | | | | | 6 | | | |
| | | パブリック・マネジメント・スタディーズ | 6 | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | 産学教育連携論 | 2 | 情報政策論 | 2 | 地域産業論 | 2 | 6 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | |
| | 業界研究 | 4 | | | | | 美容業界論 | 2 | | 4 | | | | |
| | 情報通信産業論 | | | | | | 2 | | | | | | | |
| 専門演習 | 8 | | | | | 専門演習 I | 2 | 専門演習 III | 2 | 8 | | | | |
| 専門演習 II | | | | | | 2 | 専門演習 IV | 2 | | | | | | |
| 卒業研究 | 4 | | | | | | | 卒業研究 | 4 | 4 | | | | |
| 合計 | 124 | | 18 | 18 | | 18 | 18 | | 18 | 16 | | 10 | 8 | 124 |

註: [] の科目・単位は必修科目を示す。

グローバル・マネジメント・スタディーズ(ビジネス・デザイン・スタディーズ + グローバルの視点をより重視)に軸足を置いた履修モデル

| 科目区分 | 履修すべき単位 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 履修単位 | | | |
|--------|------------------|---------------------|---------------|--------------------|-----------------|-----------------------|----------------|----------------------|------------|-------------------------|----|----|-----|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | |
| 共通教育科目 | 基礎教育科目群 | 人文科学科目 | 2 | | 環境心理学入門 | 2 | | | | | 2 | | |
| | | 社会科学科目 | | | | | | | | | | | |
| | | 自然科学科目 | | | | | | | | | | | |
| | | 国際理解科目 | 2 | | World English I | 2 | | | | | 4 | | |
| | ジェンダー科目 | 現代トピック科目 | | | | | | | | | | | |
| | | キャリアデザイン科目 | 2 | | | | アジアのなかのジェンダー | 2 | | | 2 | | |
| | 言語情報科目群 | 言語リテラシー科目 | TOEFL演習 | 1 | | English for Careers | 1 | Reading & Discussion | 1 | Global Communication I | 1 | 7 | |
| | | | キャリアデザイン科目 | | | Career Workshop | 1 | | | Global Communication II | 1 | | |
| | | 情報リテラシー科目 | | | | Writing for Daily Use | 1 | | | | | | |
| | | | 健康・スポーツ科目群 | 2 | | | ダンス・ムーブメントセラピー | 2 | | | | 2 | |
| 初年次ゼミ | 学び発見ゼミ | | | | | | | | | | | | |
| 基礎教育科目 | 英語 | 4 | | Oral Communication | 2 | Business English II | 2 | | | 6 | | | |
| | 情報演習 | | 4 | Business English I | 2 | | | | | | | | |
| | | 情報リテラシー I | 2 | | | | | | | | | | |
| | 専門基礎 | 情報リテラシー II | 2 | | | | | | | | 4 | | |
| | | キャリアデザイン特講 I | 2 | | 経営戦略論入門 | 2 | | | | | | | |
| | | 経営学入門 | 2 | | 企業財務論 | 2 | | | | | | | |
| | | 経営組織論 | 2 | | ロジカルシンキング | 2 | | | | | | | |
| | | 会計入門 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | マーケティング入門 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | マーケティングリサーチ | 2 | | | | | | | | | | |
| クラウド入門 | | 2 | | | | | | | | | | | |
| 基礎演習 | 6 | | パブリックマネジメント入門 | 2 | | | | | 24 | | | | |
| 実践科目 | | 6 | | ビジネスシンキング | 2 | | | | | 46 | | | |
| | 実践へのいざない | 2 | | 初期演習 I | 1 | 経営課題演習 I | 2 | | | 6 | | | |
| | フィールドワーク | 1 | | 初期演習 II | 1 | 経営課題演習 II | 2 | | | 6 | | | |
| 専門教育科目 | ビジネス・デザイン・スタディーズ | | 12 | | | | ビジネスモデル論 | 2 | ベンチャービジネス論 | 2 | 12 | | |
| | | | | | | 商品企画論 | 2 | 人的資源管理論 | 2 | | | | |
| | | | | | | マーケティング戦略論 | 2 | | | | | | |
| | | | | | | 広告・セールスプロモーション | | 2 | | | | | |
| | 分野別専門 | グローバル・マネジメント・スタディーズ | | 6 | | Writing | 3 | ビジネスライティング | 2 | 経験価値マネジメント | 2 | 27 | |
| | | | | | | Reading | 3 | スピーチプレゼンテーション | 2 | | | | |
| | | | | | | Conversation | 3 | グローバル経営論 | 2 | | | | |
| | | パブリック・マネジメント・スタディーズ | | 6 | | Microeconomics | 2 | グローバル製品開発論 | 2 | | | | |
| | | | | | | Financial Accounting | 2 | ブランド戦略論 | 2 | | | | |
| | | | | | | Corporate Finance | 2 | | | | | | |
| 業界研究 | | 4 | | | | 環境マーケティング | 2 | 情報政策論 | 2 | 6 | | | |
| | | | | | | パブリックマネジメント | 2 | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| 専門演習 | | 8 | | | | 健康ヘルスケア産業論 | 2 | | | 4 | | | |
| | | | | | | ホテル・ホスピタリティ産業論 | 2 | | | | | | |
| 卒業研究 | | 4 | | | | 専門演習 I | 2 | 専門演習 III | 2 | 8 | | | |
| | | | | | | 専門演習 II | 2 | 専門演習 IV | 2 | 8 | | | |
| 卒業研究 | | 4 | | | | 卒業研究 | | | 4 | 4 | | | |
| 合計 | 124 | | 18 | 18 | | 19 | 17 | | 17 | 17 | 9 | 9 | 124 |

註: [] の科目・単位は必修科目を示す。

パブリック・マネジメント・スタディーズ(ビジネス・デザイン・スタディーズ + ローカルの視点(パブリック)をより重視)に軸足を置いた履修モデル

| 科目区分 | 履修すべき単位 | 1年 | | 2年 | | 3年 | | 4年 | | 履修単位 | | | |
|---------|---------------------|---------------------|-------------|-------------|-----------------------------|--------------------|---------------|--------------|-----------|------|---|-----|----|
| | | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 | | | | |
| 共通教育科目 | 基礎教育科目群 | 人文科学科目 | | | 暮らしと法律 | 2 | 環境心理学入門 | 2 | | | 6 | | |
| | | 社会科学科目 | | | 教養としての法律 | 2 | | | | | | | |
| | | 自然科学科目 | | | | | | | | | 2 | | |
| | | 現代トピック科目 | | | モラル・ジレンマから考える私 | 2 | | | | | | | |
| | ジェンダー科目 | | | アジアの中のジェンダー | 2 | | | | | | 2 | | |
| | キャリアデザイン科目 | | | | | | | | | | 2 | | |
| | 言語情報科目群 | 言語リテラシー科目 | 英語リーディング I | 1 | Reading & Critical Thinking | 1 | | | | | 4 | | |
| | | 情報リテラシー科目 | 英語リーディング II | 1 | Reading & Discussion | 1 | | | | | 4 | | |
| | 健康・スポーツ科目群 | 健康・スポーツ科学科目 | | | | | スポーツと栄養 | 2 | | | 2 | | |
| | 初年次ゼミ | 学び発見ゼミ | | | | | | | | | | | |
| 基礎教育科目 | 英語 | Oral Communication | 2 | | | | | | | | 4 | | |
| | | Business English I | 2 | | | | | | | | 4 | | |
| | 情報演習 | 情報リテラシー I | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 情報リテラシー II | 2 | | | | | | | | | | |
| | 専門基礎 | キャリアデザイン特講 I | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 経営学入門 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 会計入門 | 2 | | | | | | | | | | |
| | | マーケティング入門 | 2 | | 公共総合基礎演習 I | 2 | | | | | | | |
| | | 統計入門 | 2 | | 公共総合基礎演習 II | 2 | | | | | | | |
| | | 経済学入門 | 2 | | 民法入門 II | 2 | | | | | | | |
| | | パブリックマネジメント入門 | 2 | | 企業の社会連携論 | 2 | | | | | | | |
| | | 地域振興論 | 2 | | CSR | 2 | | | | | | | |
| | | 法律入門 I | 2 | | | | | | | | | | |
| | | 法律入門 II | 2 | | | | | | | | | | |
| | 民法入門 I | 2 | | | | | | | | | | | |
| | ビジネスシンキング | 2 | | | | | | | | | | | |
| | 論理と教理入門 | 2 | | | | | | | | | | | |
| | 基礎演習 | 初期演習 I | 1 | | 経営課題演習 I | 2 | | | | | | 6 | |
| 初期演習 II | | 1 | | 経営課題演習 II | 2 | | | | | | 6 | | |
| 実践科目 | 実践へのいざない | 2 | | サービスラーニング | 2 | インターンシップ | 2 | | | | 6 | | |
| 専門教育科目 | ビジネス・デザイン・スタディーズ | | | 財務会計論 I | 2 | 中小企業論 | 2 | パブリックリレーションズ | 2 | | | 12 | |
| | | | | | | 対人関係論 | 2 | | | | | | |
| | | | | | | 広告・セールスプロモーション | 2 | | | | | | |
| | | | | | | デジタル戦略論 | 2 | | | | | | |
| | 分野別専門 | グローバル・マネジメント・スタディーズ | | | | | グローバル経営論 | 2 | 企業の投資意思決定 | 2 | | | 6 |
| | | | | | | | スピーチプレゼンテーション | 2 | | | | | |
| | パブリック・マネジメント・スタディーズ | | | | パブリックマネジメント論 | 2 | 公共政策論 | 2 | 地域政策論 | 2 | | | 18 |
| | | | | | 産学教育連携論 | 2 | 地域産業論 | 2 | 地方財政論 | 2 | | | |
| | | | | | 環境マーケティング | 2 | 情報政策論 | 2 | | | | | |
| | | | | | | | 地域ブランド論 | 2 | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | |
| | 業界研究 | | | | | 流通産業論 | 2 | | | | | 4 | |
| | 専門演習 | | | | | レジャー・エンターテインメント産業論 | 2 | | | | | | |
| | | | | | 専門演習 I | 2 | 専門演習 III | 2 | | | | 8 | |
| | | | | | 専門演習 II | 2 | 専門演習 IV | 2 | | | | 8 | |
| 卒業研究 | | | | | | | 卒業研究 | 4 | | | 4 | | |
| 合計 | | 124 | | 20 | 20 | 15 | 19 | 18 | 16 | 8 | 8 | 124 | |

註: の科目・単位は必修科目を示す。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (3ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| 基礎教育科目 専門基礎 経営学入門 <u>必修</u> 2 会計入門 <u>必修</u> 2 マーケティング入門 <u>必修</u> 2 パブリックマネジメント入門 <u>必修</u> 2 ビジネスシンキング <u>必修</u> 2 | 基礎教育科目 専門基礎 経営学入門 <u>選択</u> 2 会計入門 <u>選択</u> 2 マーケティング入門 <u>選択</u> 2 パブリックマネジメント入門 <u>選択</u> 2 ビジネスシンキング <u>選択</u> 2 |

(新旧対照表) 学則 (66ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 経営学部 経営学科 基礎教育科目 経営学入門 <u>必修</u> 2 会計入門 <u>必修</u> 2 マーケティング入門 <u>必修</u> 2 パブリックマネジメント入門 <u>必修</u> 2 ビジネスシンキング <u>必修</u> 2 | 経営学部 経営学科 基礎教育科目 経営学入門 <u>選択</u> 2 会計入門 <u>選択</u> 2 マーケティング入門 <u>選択</u> 2 パブリックマネジメント入門 <u>選択</u> 2 ビジネスシンキング <u>選択</u> 2 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (13ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| 4-2 カリキュラム・ポリシー 6) 専門教育科目への導入的役割と専門教育での学びの基礎をつくる科目として、「 <u>経営学入門</u> 」「 <u>会計入門</u> 」「 <u>マーケティング入門</u> 」「 <u>パブリックマネジメント入門</u> 」「 <u>ビジネスシンキング</u> 」及びキャリアデザイン特講Ⅰの必修科目を含む基礎教育科目を1年次と2年次に置く。 | 4-2 カリキュラム・ポリシー 6) <u>共通教育科目と連携し</u> 、専門教育科目への導入的役割と専門教育での学びの基礎をつくる科目として、 <u>基礎教育科目を充実させ、選択科目として1年次と2年次に置く。</u> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (15ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| (2) 基礎教育科目 具体的には、1年次には「初期演習Ⅰ」及び「初期演習Ⅱ」を置き、それをもとに2年次には、より専門的な学びの基盤を構成する「経営課題演習Ⅰ」及び「経営課題演習Ⅱ」を置く。この4科目は、科目担当者がチューターの役割と当該学年の担任団を担い、学生との交流を密にしながら、学生を初年次教育から基礎・専門教育へと導いていくものである。また、大学での学びに必要な基礎力を養成するため、英語運用能力（「Oral Communication」「Business EnglishⅠ」）や情報リテラシー（「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」）の基礎的なスキルの習得科目を必修科目として1年次に置くとともに、基礎専門の科目のうち「 <u>経営学入門</u> 」「 <u>会計入門</u> 」「 <u>マーケティング入門</u> 」「 <u>パブリックマネジメント入門</u> 」「 <u>ビジネスシンキング</u> 」及びキャリアデザイン特講Ⅰの6科目を必修科目として開講する。これ以外にも、経営学の初学者に向けた入門科目を主に1年次に選択科目として充実させ、本学部における学びの中核となる経営、財務会計、マーケティング、ファイナンス、IT、地域経営に関する基礎科目は2年次を中心に選択科目として充実させている。これらの学問的な学びを支えるための論理的な思考法やデータの分析方法に関する科目も選択科目としてここに配置した。 | (2) 基礎教育科目 具体的には、1年次には「初期演習Ⅰ」及び「初期演習Ⅱ」を置き、それをもとに2年次には、より専門的な学びの基盤を構成する「経営課題演習Ⅰ」及び「経営課題演習Ⅱ」を置く。この4科目は、科目担当者がチューターの役割と当該学年の担任団を担い、学生との交流を密にしながら、学生を初年次教育から基礎・専門教育へと導いていくものである。また、大学での学びに必要な基礎力を養成するため、英語運用能力（「Oral Communication」「Business EnglishⅠ」）や情報リテラシー（「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」）の基礎的なスキルの習得科目を必修科目として1年次に置く。これ以外にも、経営学の初学者に向けた入門科目を主に1年次に選択科目として充実させ、本学部における学びの中核となる経営、財務会計、マーケティング、ファイナンス、IT、地域経営に関する基礎科目は2年次を中心に選択科目として充実させている。これらの学問的な学びを支えるための論理的な思考法やデータの分析方法に関する科目も選択科目としてここに配置した。 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (24ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>6-2 履修指導</p> <p>入学時には、オリエンテーションを実施し、履修指導を行う。また学年毎のガイダンス（4月と9月）を実施するほか、クラスごとに教員が担任となって日々の個別指導や助言を行うとともに、事務局関連部局とも密接な連携を図って、無理なく卒業できるように配慮している。</p> <p>なお開講する基礎教育科目及び専門教育科目については、科目ナンバリングを付与し分類することで、学修の段階や順序等をわかりやすく表記し、学生に対して教育課程の体系的性を明示する。</p> <p>【資料7-2：科目ナンバリング 参照】</p> | <p>6-2 履修指導</p> <p>入学時には、オリエンテーションを実施し、履修指導を行う。また学年毎のガイダンス（4月と9月）を実施するほか、クラスごとに教員が担任となって日々の個別指導や助言を行うとともに、事務局関連部局とも密接な連携を図って、無理なく卒業できるように配慮している。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (27ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>「基礎教育科目」</p> <p>・専門基礎（44科目・88単位）の中から、必修科目の「キャリアデザイン特講Ⅰ」「経営学入門」「会計入門」「マーケティング入門」「パブリックマネジメント入門」及び「ビジネスシンキング」の6科目・12単位を含め9科目・18単位以上</p> | <p>「基礎教育科目」</p> <p>・専門基礎（44科目・88単位）の中から、必修科目の「キャリアデザイン特講Ⅰ」の1科目・2単位を含め9科目・18単位以上</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類の添付資料

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>【資料8：時間割（案）】</p> <p>専門基礎 経営学入門 <u>必修</u> 2 会計入門 <u>必修</u> 2 マーケティング入門 <u>必修</u> 2 パブリックマネジメント入門 <u>必修</u> 2 ビジネスシンキング <u>必修</u> 2</p> | <p>【資料8：時間割（案）】</p> <p>専門基礎 経営学入門 <u>選択</u> 2 会計入門 <u>選択</u> 2 マーケティング入門 <u>選択</u> 2 パブリックマネジメント入門 <u>選択</u> 2 ビジネスシンキング <u>選択</u> 2</p> |
| <p>【資料9：履修モデル】</p> <p>(ビジネス・デザイン・スタディーズ(ビジネス・デザイン・スタディーズ+グローバル(グローバルとパブリック)の視点)に軸足を置いた履修モデル)</p> <p>(グローバル・マネジメント・スタディーズ(ビジネス・デザイン・スタディーズ+グローバルの視点)に軸足を置いた履修モデル)</p> <p>(パブリック・マネジメント・スタディーズ(ビジネス・デザイン・スタディーズ+ローカル(パブリック)の視点)に軸足を置いた履修モデル)</p> | <p>【資料9：履修モデル】</p> <p>(ビジネス・デザイン・スタディーズに軸足を置いた履修モデル)</p> <p>(グローバル・マネジメント・スタディーズに軸足を置いた履修モデル)</p> <p>(パブリック・マネジメント・スタディーズに軸足を置いた履修モデル)</p> |

5. <専門教育科目の履修モデルが不明確>

以下の観点について、是正すること。

(1) 専門教育科目において3つのスタディーズのいずれかに軸足を置いた授業科目を履修するとあるが、スタディーズの開講科目数に対して各分野から取得すべき単位数が相対的に少なく、当該履修方式の目的や妥当性が不明確であるため、3分野の編成や位置付けについて、養成する人材像や3つのポリシーとも照らして合理的に説明すること。

(2) 3つのスタディーズについて、履修者に偏りが生じた場合、どのように大学として対応するのか明らかとすること。

(対応)

(1) に対する回答

本学部が目指すのは、「平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と多文化への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献する」ことです。

そのために、本学部での学びは、まず「ビジネス・デザイン・スタディーズ」で学びのベースを作り、グローバルな視点、つまり「グローバル・マネジメント・スタディーズ」と「パブリック・マネジメント・スタディーズ」に学びを展開する必要があると考えております。

つまり、これらスタディーズ制での学びは、コース制のように独立して選択されるものではなく、すべての学生が「ビジネス・デザイン・スタディーズ」で学びの幹を作り、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」と「パブリック・マネジメント・スタディーズ」の両方に枝を伸ばすようなイメージを描いております。

そのため、想定される学びのイメージには、幹を太くして両方の枝を均等に伸ばすものや、片方の枝を他方より伸ばすもの、幹をそれほど太くせず左右のどちらかの枝を大きく広げるものなど、多様なカタチが考えられます。

しかしながら、一つの幹に二つの枝という基本のイメージは共通であるため、その部分について習得すべき単位として設定しておりました。

また、この共通部分の単位が開講科目に比べて相対的に少なく設定しておりましたのは、この学びの基本を踏まえたうえで、学びのイメージを主体的に自由に展開して欲しいと考えていたからです。

また、この学びは、必ずしもすべての学生が1年次から4年次まで直線的に進めることができるわけではないと考えています。具体的には、社会情勢の変化、経験の蓄積、新たな目標の出現など、4年間の中でも学び直しの必要に迫られる可能性は十分に想定されます。そのため、主体的で体系的な学びを担保しながら、学び直しや学びのリデザインにも積極的に対応すべく、各スタディーズの枠内で取得すべき単位を開講科目数に比べ相対的に少なくしておりました。

これらのことについては、以下に抜粋しました、ディプロマ・ポリシーの3点、カリキュラム・ポリシーの1点、アドミッション・ポリシーの2点とも整合すると考えております。

<ディプロマ・ポリシー>

・グローバルな視点とローカルな視点の双方から考え、判断することができる。

・自らが目指す将来キャリアで活躍するために必要な基礎的・専門的知識を習得している。

・自らの暮らしを環境にあわせて柔軟にデザインするための技能を習得している。〈カリキュラム・ポリシー〉

・学生が目指す将来キャリアの方向を3つの学びの分野（「ビジネス・デザイン・スタディーズ」「グローバル・マネジメント・スタディーズ」及び「パブリック・マネジメント・スタディーズ」）に集約し、高度な知識・態度・方法論を備えた人材養成のコアとなる専門科目群を構成し、2年後期以降の選択科目として置く。

〈アドミッション・ポリシー〉

・人や社会、自身が目指す将来キャリアについて、これまで習得した知識や情報をもとにして、
筋道を立てて自分の考えをまとめ、それを文章や口頭で表現できる者

・経営学を中心とする本学部での学びに興味を持ち、その学びを自らの将来キャリアをデザインするための知識、技能として活用しようとする意欲を有する者

しかしながら、今回のご意見を受け、本学部では教育課程の編成方針をより明確にするために各スタディーズから取得すべき単位数を引き上げる（「ビジネス・デザイン・スタディーズ」は8単位から12単位、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」は4単位から6単位、「パブリック・マネジメント・スタディーズ」は4単位から6単位）ことにいたします。この対応は、本学部での教育課程の根幹となるスタディーズ制をより明確に示すものと考えます。

つまり、各スタディーズから取得すべき単位数を全体的に引き上げたうえで、「ビジネス・デザイン・スタディーズ」で取得すべき単位数を他のスタディーズで取得すべき単位数の2倍にすることで、すべての学生にとって、「ビジネス・デザイン・スタディーズ」での学びがベースであることを明示し、その上にグローバルな視点、つまり、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」での学びと「パブリック・マネジメント・スタディーズ」での学びがあることを明示します。つまり、「ビジネス・デザイン・スタディーズ」で学びの幹を作り、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」と「パブリック・マネジメント・スタディーズ」の両方に枝を伸ばすイメージをより強く描くことができると考えます。

このため、結果として、学生に対しては、体系的で一貫した学びをより具体的にイメージさせ、かつ、学び直しやリデザインの判断をより早期に促すことが可能になり、本学部の教育課程の編成がより有効に機能すると考えます。

以上のことに関し、「設置の趣旨等を記載した書類」において、所要の修正を行います。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (5 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>卒業要件及び履修方法</p> <p>4年以上在学し、共通教育科目から16単位以上、基礎教育科目から必修科目28単位を含め40単位以上、専門教育科目から必修科目12単位及びビジネス・デザイン・スタディーズから12単位以上、グローバル・マネジメント・スタディーズから6単位以上、パブリック・マネジメント・スタディーズから6単位以上を含め50単位以上、合計124単位以上を修得すること。なお共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目に開講される外国語科目を合計8単位以上を修得しなければならない。</p> | <p>卒業要件及び履修方法</p> <p>4年以上在学し、共通教育科目から16単位以上、基礎教育科目から必修科目28単位を含め40単位以上、専門教育科目から必修科目12単位及びビジネス・デザイン・スタディーズから12単位以上を含め50単位以上、合計124単位以上を修得すること。なお共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目に開講される外国語科目を合計8単位以上を修得しなければならない。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (28ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>6-6 履修すべき科目等と卒業要件 (1) 履修すべき科目区分及び単位数 「専門教育科目」 開講する65科目・135単位のうち、以下の履修要件に従い、合計25科目・50単位以上を履修しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野別専門のビジネス・デザイン・スタディーズ (24科目・48単位) の中から <u>6科目・12単位以上</u> ・分野別専門のグローバル・マネジメント・スタディーズ (15科目・33単位) の中から <u>3科目・6単位以上</u> ・分野別専門のパブリック・マネジメント・スタディーズ (13科目・26単位) の中から <u>3科目・6単位以上</u> | <p>6-6 履修すべき科目等と卒業要件 (1) 履修すべき科目区分及び単位数 「専門教育科目」 開講する65科目・135単位のうち、以下の履修要件に従い、合計25科目・50単位以上を履修しなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分野別専門のビジネス・デザイン・スタディーズ (24科目・48単位) の中から <u>4科目・8単位以上</u> ・分野別専門のグローバル・マネジメント・スタディーズ (15科目・33単位) の中から <u>2科目・4単位以上</u> ・分野別専門のパブリック・マネジメント・スタディーズ (13科目・26単位) の中から <u>2科目・4単位以上</u> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (28・29ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>○履修すべき科目区分と単位数 専門教育科目 分野別</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス・デザイン・スタディーズ <u>12単位以上</u> グローバル・マネジメント・スタディーズ <u>6単位以上</u> パブリック・マネジメント・スタディーズ <u>6単位以上</u> | <p>○履修すべき科目区分と単位数 専門教育科目 分野別</p> <ul style="list-style-type: none"> ビジネス・デザイン・スタディーズ <u>8単位以上</u> グローバル・マネジメント・スタディーズ <u>4単位以上</u> パブリック・マネジメント・スタディーズ <u>4単位以上</u> |
| <p>(29ページ) (2) 3つのスタディーズの履修について 「ビジネス・デザイン・スタディーズに軸足を置く学生は、・・・(中略)・・・「グローバル・マネジメント・スタディーズ」の科目群から <u>3科目・6単位以上</u>、「パブリック・マネジメント・スタディーズ」の科目群から <u>3科目・6単位以上</u> も履修する。</p> <p>「グローバル・マネジメント・スタディーズに軸足を置く学生は、・・・(中略)・・・「ビジネス・デザイン・スタディーズ」の科目群から <u>6科目・12単位以上</u>、「パブリック・マネジメント・スタディーズ」の科目群から <u>3科目・6単位以上</u> も履修する。</p> <p>「パブリック・マネジメント・スタディーズに軸足を置く学生は、・・・(中略)・・・「ビジネス・デザイン・スタディーズ」の科目群から <u>6科目・12単位以上</u>、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」の科目群から <u>3科目・6単位以上</u> も履修する。</p> | <p>(29ページ) (2) 3つのスタディーズの履修について 「ビジネス・デザイン・スタディーズに軸足を置く学生は、・・・(中略)・・・「グローバル・マネジメント・スタディーズ」の科目群から <u>2科目・4単位以上</u>、「パブリック・マネジメント・スタディーズ」の科目群から <u>2科目・4単位以上</u> も履修する。</p> <p>「グローバル・マネジメント・スタディーズに軸足を置く学生は、・・・(中略)・・・「ビジネス・デザイン・スタディーズ」の科目群から <u>4科目・8単位以上</u>、「パブリック・マネジメント・スタディーズ」の科目群から <u>2科目・4単位以上</u> も履修する。</p> <p>「パブリック・マネジメント・スタディーズに軸足を置く学生は、・・・(中略)・・・「ビジネス・デザイン・スタディーズ」の科目群から <u>4科目・8単位以上</u>、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」の科目群から <u>2科目・4単位以上</u> も履修する。</p> |

(2) に対する回答

本学部の教育課程は、コース制ではありませんので、すべての学生が「ビジネス・デザイン・スタディーズ」で学びのベースを作り、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」と「パブリック・マネジメント・スタディーズ」に学びを展開します。ただし、各スタディーズへの軸足の置き方にはバリエーションが存在しますので、特定の学期に特定のスタディーズで開講する科目に履修者が集中する可能性は存在します。また僅少となる可能性もあります。

本学部の1学年の定員は200人ですので、各講義科目はその定員を受け入れることは可能です。また、上記5.(1)のご意見に従い、各スタディーズの取得すべき単位数を引き上げましたので、当初のカリキュラムよりはバリエーションの幅が小さくなっております。

おそらく、履修者の偏りについて懸念されるものには、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」のMFW I (アメリカ分校)での開講科目と「パブリック・マネジメント・スタディーズ」の演習科目(「公共総合基礎演習 I」「公共総合基礎演習 II」)があります。

MFW Iでの開講科目につきましては、受け入れ先のMFW Iでは本学部が想定しております参加者50人に対して、4倍以上の230人を受け入れることができるキャパシティを持っております。また当該科目の履修には、履修時点でTOEIC600点以上の語学力を目安として設定しておりますので、短期留学への希望者が大多数であったとしても、TOEICスコアにより参加者は自動的に絞られることになると思われます。

また、「パブリック・マネジメント・スタディーズ」の演習科目(「公共総合基礎演習 I」及び「公共総合基礎演習 II」)も1学期あたりの履修者を50人程度と想定しておりますが、希望者が増えた場合、100人程度までは受け入れ可能です。

しかしながら、それ以上に履修希望者が増えた場合には、教育効果の観点から履修者を絞らざるを得ません。その場合は、まず、履修希望者の目指す将来キャリアを尊重しつつ、適切で丁寧な履修指導を行います。それでも絞り切れない場合は、この基礎演習との関連で履修が推奨されます「法律入門 I」「法律入門 II」「民法入門 I」「民法入門 II」「論理と数理入門」の科目についての履修状況と成績を加味し、絞り込みを行う予定にしております。

とはいえ、個々の学生は、自身が目指す将来キャリアを見据え、教員による伴走型のサポートと学生相互の共助型サポートを受けながら、自主的・体系的に履修科目をデザインすることで、偏ることなく、多様で創造的な履修をしてくれるものと期待しております。

以上のことに関し、「設置の趣旨等を記載した書類」において、所要の記述を加える修正を行います。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (23~24ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>6-1 授業の方法、受講人数、履修方法の考え方</p> <p>なお、2年後期から選択が分かれる3つのスタディーズには定員を設けていないが、各スタディーズの受入人数は、「ビジネス・デザイン・スタディーズ」には100人、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」及び「パブリック・マネジメント・スタディーズ」にはそれぞれ50人を想定しているが、MFW Iでの開講科目を履修希望する者は、履修時点でTOEIC600点以上Cの得点(目標)の語学力が必要であり、また「公共総合基礎演習 I」及び「公共総合基礎演習 II」の履修希望者が100人を超える場合は、履修希望者の目指す将来キャリアを尊重しつつ、「法律入門 I」「法律入門 II」「民法入門 I」「民法入門 II」「論理と数理入門」の科目についての履修状況と成績を加味して履修者を調整することがある。</p> | <p>6-1 授業の方法、受講人数、履修方法の考え方</p> <p>なお、2年後期から選択が分かれる3つのスタディーズには定員を設けていないが、各スタディーズの受入人数は、「ビジネス・デザイン・スタディーズ」には100人、「グローバル・マネジメント・スタディーズ」及び「パブリック・マネジメント・スタディーズ」にはそれぞれ50人を想定している。</p> |

6. <実践学習の組織体制が不明確>□

実践活動を通じた学びを重視しているが、該当する授業科目の専任教員は1名配置されているのみであり指導体制として十分ではない。また、支援組織として「実践学習センター」が示されているが、効果的な実践学習を担保する組織体制や手続が不明確であるため、指導方法や単位認定方法の詳細（評価者や評価方法）について、具体的に説明すること。特に、実践学習センターと科目担当の専任教員の配置における関係性なども含めて、学習支援や、担当教員の体制を明らかとすること。

(対応)

実践学習は、該当する授業科目を担当する専任教員（科目担当教員と呼ぶ）が履修指導から単位認定まで責任を持って担当しますが、すべての常勤教員（実践学習支援教員と呼ぶ）がサポートします。実践学習は学生の主体的で能動的な実践力を養うものであるため、情報収集から計画立案、実践学習の実施まで、学生が自律的に実践学習に取り組むことを基本方針としており、科目担当教員を含むすべての実践学習支援教員は、学生が受け身ではなく自律的に実践学習に取り組めるように、学生からの相談に対応し、適切なアドバイスやサポートを提供する伴走型のサポートを行います。

具体的には、すべての実践学習支援教員は実践学習計画立案時だけでなく、実践学習実施段階のアドバイス・サポートに随時対応し、実践学習が効果的に進むように支援する役割を担います。実践学習終了後には、学生からの相談に対応した実践学習支援教員が、学生が提出した実践学習レポートにコメントを入れてフィードバックします。すべての常勤教員が実践学習支援役として関わるため、指導体制は十分と考えております。

また支援組織として「実践学習センター」を設置します。役割としては実践学習に関わる事務手続きを一括して請け負い、円滑かつ効率的な実践学習運営を支えます。具体的には学生への情報提供、実践学習計画の受付管理、受入組織との調整連絡、実践学習支援教員との情報共有、実践学習記録・レポートの受付管理、学生からの事務手続き・相談対応等です。

実践学習センターの組織体制は、事務サポートを担う専任職員だけではなく、学部長及び科目担当教員を含む常勤教員3人（実践学習センター担当教員と呼ぶ）も兼務で所属し、すべての実践学習支援教員との連携を含む実践学習全体の遂行管理を行います。

実践学習の評価については、まず実践学習センターが実践学習レポート及び実践学習先の評価をすべて取りまとめた上で、学部長（実践学習センター長）及び科目担当教員を含む実践学習センター担当教員で組織される「評価委員会」で、実践学習レポート及び実践学習支援教員によるフィードバックコメント、実践学習先の評価内容を参考にしながら、評価点の最終調整を行い、科目担当教員が単位認定を行います。単位認定は、武庫川女子大学学則及び履修規定に基づき判定します。なお評価点については、実践学習記録・レポート内容（60点）、実践学習先の評価（20点）、実践学習への積極的参加度（20点）にて決定します。

このように、複数人から構成される評価委員会において評価を行うことで、評価点の公正・公平を期すことによりしております。

以上のことに関し、「設置の趣旨等を記載した書類」において、所要の記述（下線部分）を加える修正とともに、「実践学習組織体制および実践学習プロセス」を示すフロー資料を「資料14-2」として添付します。

9-6 実践学習プロセス

実践学習は、該当する授業科目を担当する専任教員（科目担当教員と呼ぶ）が履修指導から単位認定まで責任を持って担当するが、すべての常勤教員（実践学習支援教員と呼ぶ）がサポートする。実践学習は学生の主体的で能動的な実践力を養うものであるため、情報収集から計画立案、実践学習の実施まで、学生が自律的に実践学習に取り組むことを基本方針としており、科目担当教員を含むすべての実践学習支援教員は、学生が受け身ではなく自律的に実践学習に取り組めるように、学生からの相談に対応し、適切なアドバイスやサポートを提供する伴走型のサポートを行っていく。

具体的には、すべての実践学習支援教員は実践学習計画立案時だけでなく、実践学習実施段階のアドバイス・サポートに随時対応し、実践学習が効果的に進むように支援する役割を担います。実践学習終了後には、学生からの相談に対応した実践学習支援教員が、学生が提出した実践学習レポートにコメントを入れてフィードバックする。そのため実践学習は、次のとおり事前学習段階、情報収集・企画段階、申請・承認段階、事前準備段階、実践学習段階、事後学習段階、評価調整・単位認定のプロセスで進める。

【事前学習段階】

(以下 略)

資料14-2 「実践学習組織体制および実践学習プロセス」 (次ページ参照)

9-7 実践学習の運営機関

本学部に「実践学習センター」を設置し、実践学習が円滑かつ効果的に実施されるように事務的なサポートを行う。具体的には学生への情報提供、実践学習計画の受付管理、受入組織との調整連絡、実践学習支援教員との情報共有、実践学習記録・レポートの受付管理、学生からの事務手続き・相談対応等によって、円滑かつ効率的な実践学習運営を支えていく。

実践学習センターの組織体制は、学部長（実践学習センター長兼任）及び科目担当教員を含む実践学習センター担当教員3人が兼務で所属して、事務職員とともに、すべての実践学習支援教員との連携を含む実践学習全体の遂行管理等、実践学習の運営を支援する。

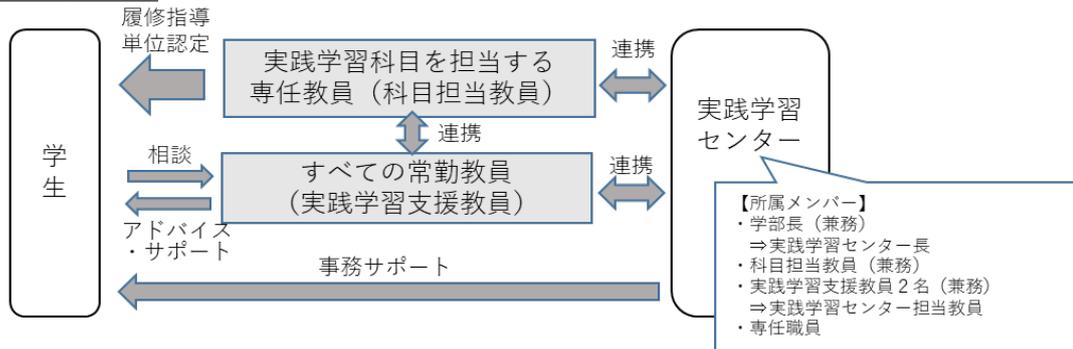
9-12 評価・単位認定方法

実践学習の最終評価・単位認定については、評価方法・評価点の公正・公平を期すために、まず実践学習センターが実践学習レポート及び実践学習先の評価をすべて取りまとめた上で、学部長（実践学習センター長）及び科目担当教員を含む実践学習センター担当教員で組織される「評価委員会」で、実践学習レポート、実践学習支援教員の評価・コメント及び実践学習先の評価内容を参考にしながら、評価点の最終調整を行い、科目担当教員が単位認定を行う。

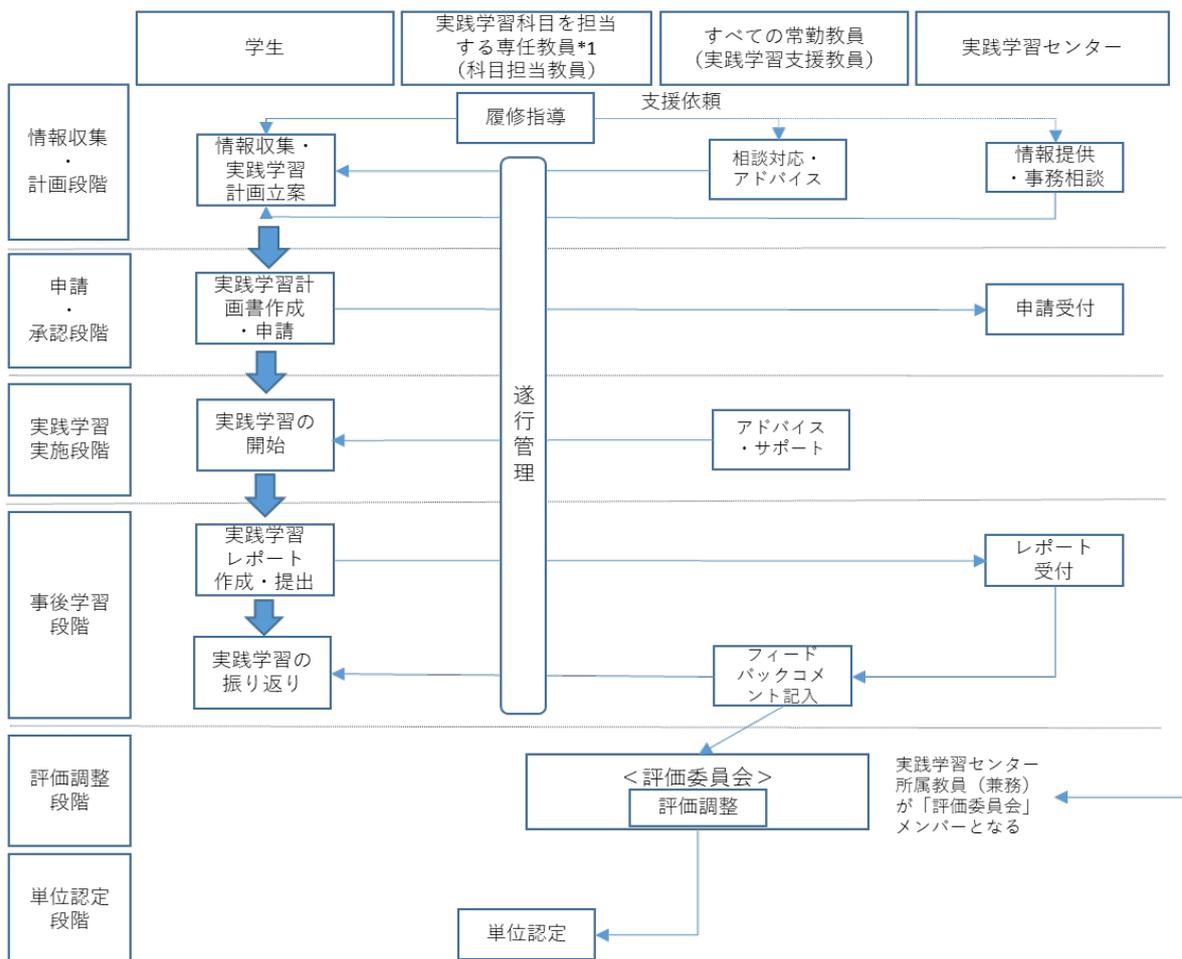
評価点は実践学習記録・レポート内容（60点）、実践学習先の評価（20点）、実践学習への積極的参加度（20点）にて決定する。また、認定単位数は活動時間数によって1～3単位に認定される。

(資料14-2) 実践学習組織体制および実践学習プロセス

実践学習組織体制

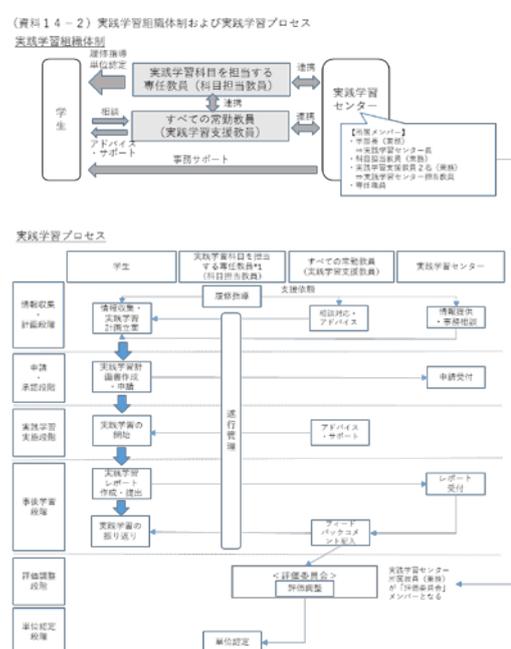


実践学習プロセス



*1 科目担当教員は単位認定者としてだけでなく、すべての常勤教員と同様に学生からの相談にも対応する

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (41・43・44・45ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(43 ページ)</p> <p>9-3 実践学習の基本方針</p> <p>すべての常勤教員は実践学習支援教員として実践学習に関わり、学生が受け身ではなく自主的に実践学習に取り組めるように、学生からの相談に対応し、適切なアドバイスやサポートを提供する伴走型のサポートを行う。</p> | <p>(41ページ)</p> <p>9-3 実践学習の基本方針</p> <p>実践学習に関わる全ての専任教員は、学生が受け身ではなく自主的に実践学習に取り組めるように、学生からの相談に対応し、適切なアドバイスやサポートを提供する伴走型のサポートを行う。</p> |
| <p>(44～45ページ)</p> <p>9-6 実践学習プロセス</p> <p>実践学習は、該当する授業科目を担当する専任教員(科目担当教員と呼ぶ)が履修指導から単位認定まで責任を持って担当するが、すべての常勤教員(実践学習支援教員と呼ぶ)がサポートする。実践学習は学生の主体的で能動的な実践力を養うものであるため、情報収集から計画立案、実践学習の実施まで、学生が自律的に実践学習に取り組むことを基本方針としており、科目担当教員を含むすべての実践学習支援教員は、学生が受け身ではなく自律的に実践学習に取り組めるように、学生からの相談に対応し、適切なアドバイスやサポートを提供する伴走型のサポートを行っていく。</p> <p>具体的には、すべての実践学習支援教員は実践学習計画立案時だけでなく、実践学習実施段階のアドバイス・サポートに随時対応し、実践学習が効果的に進むように支援する役割を担います。実践学習終了後には、学生からの相談に対応した実践学習支援教員が、学生が提出した実践学習レポートにコメントを入れてフィードバックする。</p> <p>そのため実践学習は、次のとおり事前学習段階、情報収集・企画段階、申請・承認段階、事前準備段階、実践学習段階、事後学習段階、評価調整・単位認定のプロセスで進める。</p> <p>【事前学習段階】 (以下略)</p> <p>(資料14-2：実践学習組織体制および実践学習プロセス)</p>  <p>1. 科目担当教員は単位認定者としてだけでなく、すべての実践教員と連携し学生からの相談にも対応する</p> | <p>(43～44ページ)</p> <p>9-6 実践学習プロセス</p> <p>実践学習は、次のとおり事前学習段階、情報収集・企画段階、申請・承認段階、事前準備段階、実践学習段階、事後学習段階、評価・単位認定のプロセスで進める。</p> <p>【事前学習段階】 (以下略)</p> <p>(添付資料 追加)</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (44ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>(45ページ)</p> <p>9-7 実践学習の運営機関</p> <p>本学部に「実践学習センター」を設置し、実践学習が円滑かつ効果的に実施されるように事務的なサポートを行う。<u>具体的には学生への情報提供、実践学習計画の受付管理、受入組織との調整連絡、実践学習支援教員との情報共有、実践学習記録・レポートの受付管理、学生からの事務手続き・相談対応等によって、円滑かつ効率的な実践学習運営を支えていく。</u></p> <p><u>実践学習センターの組織体制は、学部長（実践学習センター長兼任）及び科目担当教員を含む実践学習センター担当教員3人が兼務で所属して、事務職員とともに、すべての実践学習支援教員との連携を含む実践学習全体の遂行管理等、実践学習の運営を支援する。</u></p> | <p>(44ページ)</p> <p>9-7 実践学習の運営機関</p> <p>本学部に「実践学習センター」を設置し、実践学習が円滑かつ効果的に実施されるように事務的なサポートを行う。実践学習センターには、学部長（実践学習センター長兼任）及び実践学習センター担当教員3人が兼務で所属して、事務職員とともに実践学習の運営を支援する。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (46・47ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| <p>(46ページ)</p> <p>9-8 実践学習前のオリエンテーション及び準備</p> <p>実践学習先及び実践学習内容によって事前オリエンテーションが必要な場合は、実践学習センター、または<u>実践学習支援教員（当該実践学習を支援する常勤教員）</u>が実践学習開始2週間程度前を、実践学習の意義・目的、実践学習内容の期待成果、実践学習先の特徴やスケジュール、留意点などについて十分に説明する。</p> | <p>(45ページ)</p> <p>9-8 実践学習前のオリエンテーション及び準備</p> <p>実践学習先及び実践学習内容によって事前オリエンテーションが必要な場合は、実践学習センター、または<u>実践学習支援教員</u>が実践学習開始2週間程度前を、実践学習の意義・目的、実践学習内容の期待成果、実践学習先の特徴やスケジュール、留意点などについて十分に説明する。</p> |
| <p>(47ページ)</p> <p>9-10 実践学習中の対応</p> <p>学生は入学時に学生向け傷害保険・付帯賠償責任保険に全員加入することを義務付ける。但し海外留学時は別途海外保険に加入する。学生は被災、過失などにかかわらず、事故などにあった場合には速やかに「実践学習センター」に報告し、その指示を仰ぐことを徹底する。「実践学習センター」はその報告を受けて、実践学習センター長及び<u>実践学習センター担当教員</u>へ報告し、適切な対応を講じる。</p> | <p>(45ページ)</p> <p>9-10 実践学習中の対応</p> <p>学生は入学時に学生向け傷害保険・付帯賠償責任保険に全員加入することを義務付ける。但し海外留学時は別途海外保険に加入する。学生は被災、過失などにかかわらず、事故などにあった場合には速やかに「<u>実践学習センター</u>」に報告し、その指示を仰ぐことを徹底する。「<u>実践学習センター</u>」はその報告を受けて、<u>実践学習センター長</u>及び<u>実践学習担当教員</u>へ報告し、適切な対応を講じる。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (48ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| <p>(48ページ)</p> <p>9-12 実践学習前のオリエンテーション</p> <p>実践学習の最終評価・単位認定については、評価方法・評価点の公正・公平を期すために、<u>まず実践学習センターが実践学習レポート及び実践学習先の評価をすべて取りまとめた上で、学部長（実践学習センター長）及び科目担当教員を含む実践学習センター担当教員で組織される「評価委員会」で、実践学習レポート、実践学習支援教員の評価・コメント及び実践学習先の評価内容を参考にしながら、評価点の最終調整を行い、科目担当教員が単位認定を行う。</u></p> <p>評価点は実践学習記録・レポート内容（60点）、実践学習先の評価（20点）、実践学習への積極的参加度（20点）にて決定する。また、認定単位数は活動時間数によって1～3単位に認定される。</p> | <p>(46ページ)</p> <p>9-12 評価・単位認定方法</p> <p>実践学習の最終評価・単位認定については、評価方法・評価点の公正・公平を期すために、<u>学部長（実践学習センター長）のもとで、実践学習3科目担当教員及び実践学習センター担当教員が「評価委員会」を組織し、実践学習支援教員の評価・コメントも参考にしながら評価点の最終調整を行い、単位認定を行う。</u> 評価点は実践学習記録・レポート内容（60点）、実践学習先の評価（20点）、実践学習への積極的参加度（20点）にて決定する。また、認定単位数は活動時間数によって1～3単位に認定される。</p> |

7. <大学水準の教育内容か疑義>

授業科目の概要において「大学生生活入門」「女性のためのライフプランニング」「就活リテラシー」の各科目の説明があるが、大学教育として十分な水準にあるか不明確であるため、例えば基礎理論の学習後に実践教育を実施するといった体系的な学びであることを明確にするなど、単位付与に値する講義内容であることを具体的に説明すること。

(対応)

平成3年7月に施行された大学設置基準の一部を改正する省令により、個々の大学が、その教育理念・目的に基づき、学術の進展や社会の要請に適切に対応しつつ、特色ある教育研究を展開し得るよう、大学設置基準の大綱化によって制度の弾力化を図られたことを受け、本学では平成4年度から、全ての学生が共通の教養科目を履修できる教育課程を編成するとともに、「共通教育部」の組織を設け、主体的にカリキュラムの編成・実施を行っております。

本学の共通教育科目は、高校生活を終えて入学した学生にとって、初めて大学の授業を受けるのが、共通教育科目であることから、科目名称や授業内容、シラバス（授業計画）の表現につきましては、できる限り興味・関心を持たせるために、敢えて平易な表現に努め、幅広い分野の科目を履修させるような配慮を行ってまいりました。しかしながら、「大学教育としての水準」「単位付与に値する講義内容」であるかといった視点につきましては十分ではありませんでした。

今回のご意見を真摯に受け止め、まず即時的な対応としまして、「大学生生活入門」「女性のためのライフプランニング」の2科目につきましては、授業科目の概要の記述を修正します。また「就活リテラシー」につきましては、科目名称を「キャリアビジョンと人物評価」に改めるとともに、授業科目の概要も修正します。また併行して、当該3科目のみならず、共通教育科目の全ての開講科目の授業科目概要（内容）等についての見直しを経営学部の設置を契機に行います。その結論につきましては、本学では大学基準協会による第3期目の認証（大学）評価を令和5年度に受けることにしているため、それまでを目標に是正いたします。

○「大学生生活入門」の開講理由

本学では10年前に、全学的な教育課題として共通教育全般の抜本的な見直しに取り組みました。特に、共通教育の理念については、立学の精神を踏まえるとともに、学科の基礎教育科目及び専門教育科目との関係性、期待される学士力の育成、さらに多様化する学生の学びへの姿勢などを考慮し、「MW教養コア」と呼ぶ5つの教育目標を定めました。この「MW教養コア」に基づき、開講する科目を複数の科目群に配置しています。

こうした検討過程で議論になった項目の一つが初年次教育との関連でありました。昨今のように、大学1年は実質高校4年と称される状況が多く大学の見受けられます。初年次教育の重要性については、本学では昭和40年代から全学的に問題意識を共有し、クラス担任制を採るとともに、初年次教育の一環として「初期演習（必修科目）」を基礎教育科目に設け、加えて宿泊研修を実施し、早期に大学生としての自覚と学びの姿勢の確立に尽力してまいりました。

現状の多くの大学で行われている初年次教育の内容は、概ね以下のようになっています。

1. アカデミックスキルに関するもの（学習技術の獲得）

レポートや論文の書き方の作法、ノートの取り方、プレゼンテーションや討論、口頭発表の技法

2. 論理的思考力や問題発見・解決能力の基礎

3. 学問や大学教育全般への動機付け

4. 学内の教育資源の活用方法

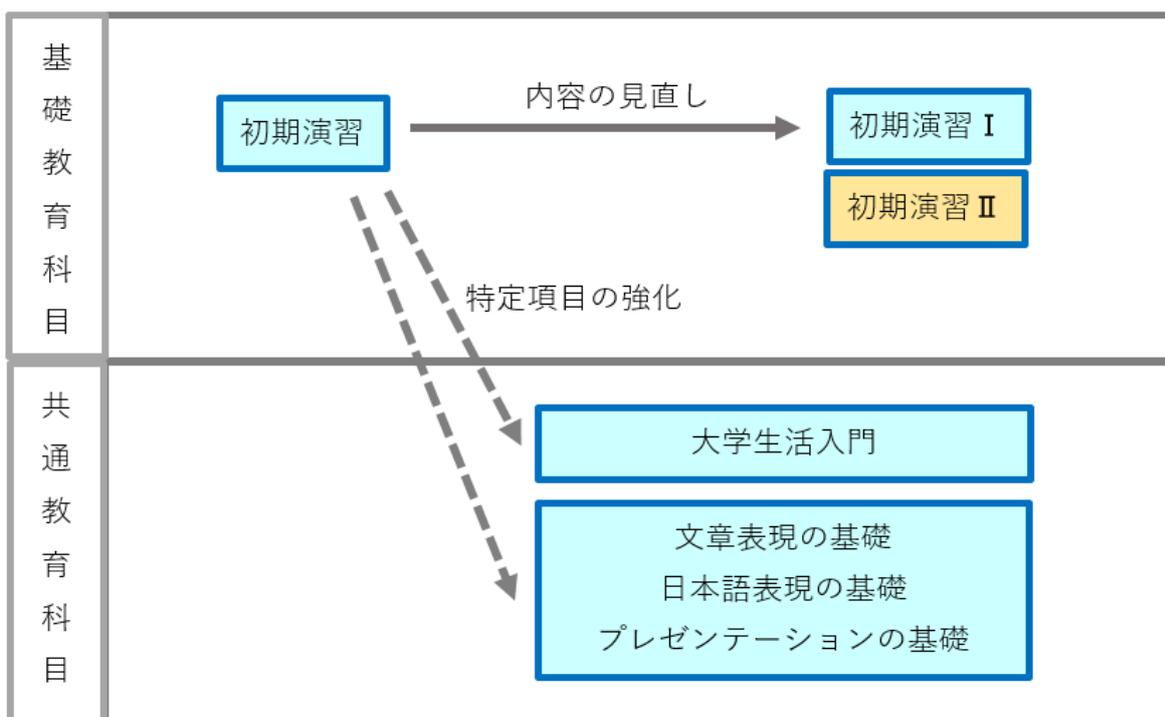
5. 将来の職業生活や進路選択への動機付け・方向付け
6. コミュニティの一員としての自覚の醸成
自校史に基づく自大学への帰属意識、社会の構成員としての自覚や責任感・倫理観
7. 円滑な大学生活への支援
学生生活における時間管理や学習習慣、メンタルヘルス等の精神的・肉体的健康の維持

本学でこうした内容を具体化しているのが「初期演習」という科目であります。この科目は、クラス単位の授業として実施されており、内容についても過去半世紀の間に、その時々々の学生の状況や大学教育全体の状況を踏まえ、改善を重ねてきておりますが、大学全入ということが話題なる時代に入り、入学する学生の多様化は確実に進んでいます。このため、大学4年間でいわゆる「学士力」として求められている知識・能力・資質を備えた学生を社会に送り出すためには、入学後の初年次教育の重要性は増していると考えます。

本学の現状に即して述べれば、かなり早い段階から「初期演習」という科目を基礎教育科目で必修科目として設定してきたにも関わらず、近年その実効性が低下していることが学内の議論で指摘されています。これは、初期演習という形態では、いろいろの話題を取り上げているにも関わらず、学生にその意図が浸透していない、すなわち初年次の学生に必要な内容を広く薄く提供している結果とも言えます。

このような事態を受け、初期演習そのものの見直しを行うとともに、初年次教育に取り上げられるテーマのいくつかを徹底して学生に教育する機会を保障することで、初年次教育の実効性を高めることを目的として、現状の初期演習で手薄になるテーマを中心にした内容の科目を共通教育科目で開講することとなりました。

こうした動きを受けて、「大学生活入門」を新たに設け、学術的観点や研究成果あるいは社会実践に裏付けられた「対人関係」「危機管理」「健康管理」「犯罪予防」「食習慣」などについての基礎知識の獲得と態度の育成を目的としており、テーマ毎に小レポート、小テストを実施し定着を図っています。本科目での学びは、学生生活だけでなく、将来社会人として健全な社会生活を送る礎にもなるものと考えて開講しております。



初年次教育関連科目

○「大学生活入門」の授業科目概要の修正文

大学での学修を確実なものにするには、日々の学習活動を支える環境についての理解と実践が不可欠である。本科目では、学術的観点や研究成果あるいは社会実践に裏付けられた「対人関係」「危機管理」「健康管理」「犯罪予防」「食習慣」などについて基礎を学び、テーマ毎に小レポート、小テストを実施し定着を図る。本科目での学びは、学生生活だけでなく、将来社会人として健全な社会生活を送る礎にもなる。

○「女性のためのライフプランニング」の開講理由

「女性のためのライフプランニング」につきましては、共通教育のキャリアデザイン科目群で開講する科目です。このキャリアデザイン科目群は、「自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成」を目的としております。キャリア・センターが中心となって行う講座や講習は、就職支援を含む進路支援が中心になりますが、共通教育でのキャリアデザイン科目は学生から社会人となり、その後の人生設計も含むライフデザインの考え方を学び、将来設計の基礎知識を習得することを目的として科目を開講しております。

本学は女子大学ということもあり、キャリアデザインを考える際には就職に加え、結婚・出産・育児など女性の視点から、人生の節目・節目に対する知識や対処方法を学ぶことが不可欠であると考えております。その意味では、単なる「ライフプランニング」では不十分で、女性の生き方を念頭に置いた科目設定の必要性は高く、科目内容も単なる知識習得に終わるのではなく、学術的成果に基づいて、労働・結婚・子育て・ファイナンシャルプランさらには離婚などの現状を考察し、自らのライフプラン実現に伴う課題を見極め、グループディスカッションなどを通じて、多面的な視点から課題解決能力の形成を図る授業展開を実践しております。

○「女性のためのライフプランニング」の授業科目概要の修正文

近年、女性をとりまく環境は大きく変化し、人生のターニングポイントを意識したライフプラン作りが重要になる。学術的成果に基づいて、労働・結婚・子育て・ファイナンシャルプラン、さらには離婚などの現状を理解し、自己分析を通じてライフプラン作りの基礎を学ぶ。さらに、自らのライフプラン実現に伴う課題を見極め、グループディスカッションなどを通じて、多面的な視点から課題解決能力の形成を図る。

○「就活リテラシー」改め「キャリアビジョンと人物評価」の開講理由

「就活リテラシー」につきましても、上述の「女性のためのライフプランニング」と同様に、共通教育のキャリアデザイン科目群で開講する科目ですが、大学での教育水準を確保するため、科目名称を「キャリアビジョンと人物評価」に改め、その内容も雇用情勢の現状と変化を切り口にして、社会情勢の変化を読み解くとともに、ビジネス上の意思決定に用いられるSWOT分析（強み：Strengths、弱み：Weaknesses、機会：Opportunities、脅威：Threats）を自己分析に適用することで、人物評価への応用を試みます。加えて、自己評価の結果は、半構造化面接法とプレゼンテーション技法をロジカルに展開することで、二者関係や三者関係、あるいは集団において、自他及びメンバー相互の建設的な理解を引き出す能力の育成を意図しております。

○「キャリアビジョンと人物評価」の授業科目概要

雇用情勢は、有効求人倍率や失業率といったマクロ統計と密接に関連し、日本経済の動向を知るための大きな手がかりの一つである。この授業では、日本の雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を適用した人物評価の技法を理解し、構造化面接法を用いて相互理解のあり方を実践的に学ぶ。

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (10ページ)

| 新 | 旧 |
|-------------------------------------|-------------------------------|
| 共通教育科目 キャリアデザイン科目群 キャリアビジョンと人物評価 | 共通教育科目 キャリアデザイン科目群 就活リテラシー |
| 1前・後 選択2 講義○ 専任教員配置 助教1 | 1前・後 選択2 講義○ 専任教員配置 准教授1 |

(新旧対照表) 授業科目の概要 (12ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| (12ページ) 大学生生活入門 大学での学修を確実なものにするには、日々の学習活動を支える環境についての理解と実践が不可欠である。本科目では、学術的観点や研究成果あるいは社会実践に裏付けられた「対人関係」、「危機管理」、「健康管理」、「犯罪予防」、「食習慣」などについて基礎を学び、テーマ毎に小レポート、小テストを実施し定着を図る。本科目での学びは、学生生活だけでなく、将来社会人として健全な社会生活を送る礎にもなる。 | (10ページ) 大学生生活入門 この科目は学生に必要な生活知識や大学生生活を取り巻く諸問題(15テーマ)を取り扱う。 1 大学生生活とコミュニケーション① 2 大学生生活とコミュニケーション② 3 自然災害(地震・気象)に対する危機管理 4 日常生活に潜む危険に対する危機管理 5 酒・アルコールが身体に及ぼす影響 6 喫煙が身体に及ぼす影響 7 危険な薬毒物(大麻・覚せい剤・ドラッグ) 8 知っておきたい女性の体としくみ① 9 知っておきたい女性の体としくみ② 10 身近に起きる犯罪および防犯について 11 若者を狙った悪質商法 12 ネットとケータイの落とし穴 13 債務(クレジットカード・借金)について 14 生活習慣病と食生活・ダイエット① 15 生活習慣病と食生活・ダイエット② |

(新旧対照表) 授業科目の概要 (14ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| (14ページ) 女性のためのライフプランニング 近年、女性をとりまく環境は大きく変化し、人生のターニングポイントを意識したライフプラン作りが重要になる。学術的成果に基づいて、労働・結婚・子育て・ファイナンシャルプランさらには離婚などの現状を理解し、自己分析を通じてライフプラン作りの基礎を学ぶ。さらに、自らのライフプラン実現に伴う課題を見極め、グループディスカッションなどを通じて、多面的な視点から課題解決能力の形成を図る。 | (12ページ) 女性のためのライフプランニング 最初に自己分析により適性判断、自己アピールの仕方を考える。次に、遭遇する女性の人生のターニングポイント(就活・妊活・結婚・子育て・マネープラン等)をとりまく状況の講義を受ける。各テーマごとのグループディスカッションで学年を超えた意見交換を行い、自分の考えを整理してライフプランを考える。また、毎授業数人による2分間スピーチや授業の感想記入を通して、双方向授業を行う。 |

(新旧対照表) 授業科目の概要 (14ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| (14ページ) キャリアビジョンと人物評価 雇用情勢は、有効求人倍率や失業率といったマクロ統計と密接に関連し、日本経済の動向を知るための大きな手がかりの一つである。この授業では、日本の雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を適用した人物評価の技法を理解し、構造化面接法を用いて相互理解のあり方を実践的に学ぶ。 | (13ページ) 就活リテラシー 就職活動(就活)で重要となるのが、面接試験である。近年、社会情勢の変化により民間就職のみならず、公務員試験においても、人物重視になるなど、その選抜方法に「変化」が生じている。面接試験は、学生生活での経験を通じて得た人間力を総合的に表現する点で難しく、入念な事前準備が求められる。面接試験において印象を残すための対策として、志望動機と自己アピールに関連性をもたせるチューニング作業を実践的に学ぶ。 |

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (5ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 科目名：キャリアビジョンと人物評価 | 科目名：就活リテラシー |
| 担当者名：藤井 善仁 | 担当者名：藤井 善仁 |
| 科目目的 有効求人倍率や失業率などのマクロ統計から雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、企業の採用評価の理論や論理を理解し、人物評価と相互理解のあり方を実践的に学ぶ。 | 科目目的 キャリアデザインに必要なリテラシーとして、自分自身についての数多くの情報の中から、働くために必要な情報をどのように抜き出し、どのように他者にアピールし、どのように活用するかについて学ぶ。 |

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (5 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 到達目標 | 到達目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・マクロ統計から雇用情勢や経済動向を推測できる。 ・ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を客観的に用いることができる。 ・人物評価や相互理解の方法としての構造化面接法を用いることができる。 | <p>将来キャリアを具体的にイメージし、それに向けた自分の強みをアピールできるようにする。</p> |
| 授業内容 | 授業内容 |
| <p>雇用情勢は、有効求人倍率や失業率といったマクロ統計と密接に関連し、日本経済の動向を知るための大きな手がかりの一つである。この授業では、日本の雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を適用した人物評価の技法を理解し、構造化面接法を用いて相互理解のあり方を実践的に学ぶ。</p> | <p>本講義では、就職活動(就活)をメタファーとして、キャリアデザインに必要な総合力を体験的に学ぶ。キャリアデザインとは、自分自身の大学生生活や職業生活、将来キャリアについて、主体的に構想し、実現していくことであるが、そのためには、リテラシーともいべき能力が求められる。自分についての数多くの情報の中から、働くために必要な情報をどのように抜き出し、どのように他者にアピールし、どのように活用するのかについて検討する必要があるからである。講義では、面接試験を模した対話場面を設定し、そこで自分を表現する方法を学ぶ。面接場面での対話は、学生生活を通じて得た人間力を短時間で総合的に表現する点で難しく、リテラシーが試される。この対話に向けて、現状の自分の経験や獲得スキルを再確認し、ありたい将来像について考え、自らの持つ能力を活かす方向について共に考える。</p> |
| 授業計画 | 授業計画 |
| <p>1回：オリエンテーション：授業の進め方について 2回：雇用情勢・経済動向を踏まえたキャリアビジョン設定の重要性 3回：雇用情勢とマクロ統計との関連 4回：一般企業を取り巻く雇用情勢の理解と日本の経済情勢 5回：国家・地方公務員を取り巻く雇用情勢の理解と日本の経済情勢 6回：採用基準としての人物評価の視点から自己をとらえてみる 7回：SWOT(強み：Strength、弱み：Weakness、機会：Opportunity、脅威：Threat)分析の基本と人物評価への応用 8回：SWOT分析の実施と振り返り 9回：中間の振り返りとレポートの作成 10回：人物評価における定量的評価と定性的評価 11回：構造化面接(面接者が変わっても内容や対応が変わらない面接)法とコンピテンシーの基礎 12回：構造化面接法とコンピテンシーの応用 13回：構造化面接法を用いた二者間のコミュニケーションにおける自他理解の実践 14回：構造化面接法を用いた集団的コミュニケーションにおける自他理解の実践 15回：半期のまとめと最終レポートの作成</p> | <p>第1回 授業の概要と進め方について 第2回 自分の経験に関する再確認について 第3回 自分の獲得スキルおよびレベルの再確認について 第4回 将来キャリアに関する情報収集について 第5回 社会的な興味・関心の再確認 第6回 興味・関心を具体的な動機に転換するためのフレームワーク 第7回 他者に語る動機の文書化 第8回 自己分析の方法について 第9回 自己分析の実施と振り返り 第10回 個人面接場面での対話スキル 第11回 個人面接場面での対話の実践 第12回 プレゼンテーション場面での対話スキル 第13回 プレゼンテーションの実践 第14回 キャリアデザインの文書化スキル 第15回 キャリアデザインの文書化レポート</p> |
| 授業方法 | 授業方法 |
| <p>講義を中心とするが、個人やグループによる実習を適宜実施する。</p> | <p>講義を中心とするが、後半では模擬面接とプレゼンテーションを実施する。</p> |
| 評価方法 | 評価方法 |
| <p>毎回の授業で課すコメントシート(20点)、授業の中間で作成するレポート(40点)、最終授業で作成するレポート(40点)</p> | <p>毎回の授業で課すコメントシート(20点)、動機についてのレポート(40点)、キャリアデザインのレポート(40点)で評価する。</p> |

(新旧対照表) シラバス (授業計画) (5 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| 教科書 | 教科書 |
| 教科書ではなく、講義ノートの配布により授業を展開する。 | 講義ノートを配布する。 |
| 参考書 | 参考書 |
| 堀 公俊著/ビジネス・フレームワーク/日経ビジネス人文庫 畑山 浩昭他著/自己表現の技法—文章表現・コミュニケーション・プレゼンテーション/実教出版 | 渡辺 秀和著/未来を創るキャリアの授業/日経ビジネス人文庫 畑山 浩昭他著/自己表現の技法—文章表現・コミュニケーション・プレゼンテーション/実教出版 |

(新旧対照表) 学則 (26ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 別表第1 共通教育科目 キャリアデザイン科目 キャリアビジョンと人物評価 選択 2 | 別表第1 共通教育科目 キャリアデザイン科目 就活リテラシー 選択 2 |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (19ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 「共通教育科目」 その科目は、基礎教養科目群のうち人文科学科目の「環境心理学入門」に専任教員が1人、社会科学科目の「教養としての法律」「暮らしと法律」に専任教員が1人、現代トピック科目の「女性のためのマーケティング」に専任教員が1人、キャリアデザイン科目群のうち「キャリアビジョンと人物評価」に専任教員が1人、・・・ | 「共通教育科目」 その科目は、基礎教養科目群のうち人文科学科目の「環境心理学入門」に専任教員が1人、社会科学科目の「教養としての法律」「暮らしと法律」に専任教員が1人、現代トピック科目の「女性のためのマーケティング」に専任教員が1人、キャリアデザイン科目群のうち「就活リテラシー」に専任教員が1人、・・・ |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (資料8 時間割案)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| (資料8) 時間割 (案) 月 2 10:45~12:15 キャリアビジョンと人物評価 1・前 選 藤井 中・1 A~H キャリアビジョンと人物評価 1・後 選 藤井 中・1 A~H 月 3 13:05~14:35 キャリアビジョンと人物評価 1・前 選 藤井 中・1 A~H キャリアビジョンと人物評価 1・後 選 藤井 中・1 A~H | (資料8) 時間割 (案) 月 2 10:45~12:15 就活リテラシー 1・前 選 藤井 中・1 A~H 就活リテラシー 1・後 選 藤井 中・1 A~H 月 3 13:05~14:35 就活リテラシー 1・前 選 藤井 中・1 A~H 就活リテラシー 1・後 選 藤井 中・1 A~H |

(新旧対照表) 教員の氏名等 (3 ページ)

| 新 | 旧 |
|--|---|
| (3 ページ) ② 藤井 善仁 キャリアビジョンと人物評価 経済学入門 (以下 略) | (2 ページ) 12 藤井 善仁 就活リテラシー 経済学入門 (以下 略) |

「補正後」

科目名:キャリアビジョンと人物評価

担当者名:藤井 善仁

| |
|--|
| 科目目的 |
| 有効求人倍率や失業率などのマクロ統計から雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、企業の採用評価の理論や論理を理解し、人物評価と相互理解のあり方を実践的に学ぶ。 |
| 到達目標 |
| <ul style="list-style-type: none">マクロ統計から雇用情勢や経済動向を推測できる。ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を客観的に用いることができる。人物評価や相互理解の方法としての構造化面接法を用いることができる。 |
| 講義等の内容 |
| 雇用情勢は、有効求人倍率や失業率といったマクロ統計と密接に関連し、日本経済の動向を知るための大きな手がかりの一つである。この授業では、日本の雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を適用した人物評価の技法を理解し、構造化面接法を用いて相互理解のあり方を実践的に学ぶ。 |
| 授業計画 |
| 1回:オリエンテーション:授業の進め方について 2回:雇用情勢・経済動向を踏まえたキャリアビジョン設定の重要性 3回:雇用情勢とマクロ統計との関連 4回:一般企業を取り巻く雇用情勢の理解と日本の経済情勢 5回:国家・地方公務員を取り巻く雇用情勢の理解と日本の経済情勢 6回:採用基準としての人物評価の視点から自己をとらえてみる 7回:SWOT(強み:Strength、弱み:Weakness、機会:Opportunity、脅威:Threat)分析の基本と人物評価への応用 8回:SWOT分析の実施と振り返り 9回:中間の振り返りとレポートの作成 10回:人物評価における定量的評価と定性的評価 11回:構造化面接(面接者が変わっても内容や対応が変わらない面接)法とコンピテンシーの基礎 12回:構造化面接法とコンピテンシーの応用 13回:構造化面接法を用いた二者間のコミュニケーションにおける自他理解の実践 14回:構造化面接法を用いた集团的コミュニケーションにおける自他理解の実践 15回:半期のまとめと最終レポートの作成 |
| 授業方法 |
| 講義を中心とするが、個人やグループによる実習を適宜実施する。 |
| 評価方法 |
| 毎回の授業で課すコメントシート(20点)、授業の中間で作成するレポート(40点)、最終授業で作成するレポート(40点) |
| 教科書 |
| 教科書ではなく、講義ノートの配布により授業を展開する。 |
| 参考書 |
| 堀 公俊著/ビジネス・フレームワーク/日経ビジネス人文庫 畑山 浩昭他著/自己表現の技法—文章表現・コミュニケーション・プレゼンテーション/実教出版 |

科目名： 就活リテラシー

担当者名： 藤井 善仁

| |
|---|
| 科目目的 |
| <p>キャリアデザインに必要なリテラシーとして、自分自身についての数多くの情報の中から、働くために必要な情報をどのように抜き出し、どのように他者にアピールし、どのように活用するのかについて学ぶ。</p> |
| 到達目標 |
| <p>将来キャリアを具体的にイメージし、それに向けた自分の強みをアピールできるようになる。</p> |
| 授業内容 |
| <p>本講義では、就職活動(就活)をメタファーとして、キャリアデザインに必要となる総合力を体験的に学ぶ。キャリアデザインとは、自分自身の大学生活や職業生活、将来キャリアについて、主体的に構想し、実現していくことであるが、そのためには、リテラシーともいべき能力が求められる。自分についての数多くの情報の中から、働くために必要な情報をどのように抜き出し、どのように他者にアピールし、どのように活用するのかについて検討する必要があるからである。講義では、面接試験を模した対話場面を設定し、そこで自分を表現する方法を学ぶ。面接場面での対話は、学生生活を通じて得た人間力を短時間で総合的に表現する点で難しく、リテラシーが試される。この対話に向けて、現状の自分の経験や獲得スキルを再確認し、ありがたい将来像について考え、自らの持つ能力を活かす方向について共に考える。</p> |
| 授業計画 |
| <p>第1回 授業の概要と進め方について 第2回 自分の経験に関する再確認について 第3回 自分の獲得スキルおよびレベルの再確認について 第4回 将来キャリアに関する情報収集について 第5回 社会的な興味・関心の再確認 第6回 興味・関心を具体的な動機に転換するためのフレームワーク 第7回 他者に語る動機の文書化 第8回 自己分析の方法について 第9回 自己分析の実施と振り返り 第10回 個人面接場面での対話スキル 第11回 個人面接場面での対話の実践 第12回 プレゼンテーション場面での対話スキル 第13回 プレゼンテーションの実践 第14回 キャリアデザインの文書化スキル 第15回 キャリアデザインの文書化レポート</p> |
| 授業方法 |
| <p>講義を中心とするが、後半では模擬面接とプレゼンテーションを実施する。</p> |
| 評価方法 |
| <p>毎回の授業で課すコメントシート(20点)、プレゼンテーション(20点)、動機についてのレポート(20点)、キャリアデザインのレポート(40点)で評価する。</p> |
| <p>講義ノートを配布する。</p> |
| 参考書 |
| <p>渡辺 秀和著／未来をつくるキャリアの授業／日経ビジネス人文庫 畑山 浩昭他著／自己表現の技法—文章表現・コミュニケーション・プレゼンテーション／実教出版</p> |

8. <留学生の受入れ方針等が不明>

入学者選抜の概要で外国人留学生入試について記載があるが、方針等が不明確であるため、例えば日本語能力試験等の日本語の要件がどの水準に設定されているのか、また入学後の学修支援等が適切に構想されているのか、具体的に明らかにすること。

(対応)

本学での授業は、外国語科目以外は概ね日本語で行うため、その内容が理解できる日本語能力を求めます。そのため外国人留学希望者に対する出願条件を「日本留学試験(EJU)日本語(記述問題を含む)」で230点以上を取得している者としています。このことは、本学の既設学部で既に設定されている基準であり、経営学部においても同一基準とします。

この「日本留学試験」は、独立行政法人日本学生支援機構が、日本の大学等で必要とする日本語力及び基礎学力の評価を行うことを目的に実施する試験で、これまでの「日本語能力試験」と「私費外国人留学生統一試験」の2つの試験に代わるものとして、2002年より年2回(6月及び11月)、国内と国外で実施されているもので、試験科目が「日本語」「理科」「総合科目」「数学」の4種類のうち、本学では日本の大学等での勉学に対応できる日本語力(アカデミック・ジャパニーズ)を測定する「日本語」の試験科目(試験時間125分、試験及び得点範囲は①読解・聴解・聴読解0~400点、②記述0~50点、計450点)での得点を求めています。

また、この水準は、国際交流基金と財団法人日本国際教育支援協会が日本語を母国語としない人を対象として、日本語の能力を測定する「日本語能力試験」のN2(日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解することができる)に相当します。

外国人留学希望者には、この出願条件をクリアしたうえで、書類審査と日本語による面接試験(小論文を含む)を行い、入学の可否を判定します。また入学後は、経営学部の専任教員のうち、現在勤務する大学で外国人交換留学生の教育・生活指導の業務従事者の経験を有する者がサポート役に就くとともに、日本の大学(大学院)へ留(修)学経験のある者や国際センターなどの全学的組織において、外国人留学生の一人ひとりに対して学修及び学生生活が有意義に過ごせるようサポートしていきます。

以上のことに関しまして、「設置の趣旨等を記載した書類」に求める日本語能力の水準や入学後の学習支援等についての記述を加える修正を行います。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (24ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>6-2 履修指導 学生への履修指導や生活指導、サポート等については、専任教員に加え、学部事務室職員をはじめ、教務部(共通教育科目を含む)、学生部、外国語教育推進室等の全学的な事務組織の職員がサポートする体制をとっている。特に外国人留学生に対しては、上記に加え、前任大学で外国人交換留学生の教育・生活支援の業務経験を有する経営学部の専任教員が就くほか、日本の大学(大学院)での留(修)学経験のある教員や国際センターなどの全学的な組織でのサポートを行っている。</p> | <p>6-2 履修指導 学生への履修指導や生活指導、サポート等については、専任教員に加え、学部事務室職員をはじめ、教務部(共通教育科目を含む)、学生部、外国語教育推進室等の全学的な事務組織の職員がサポートする体制をとっている。</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (38～39・40ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(38～39ページ)</p> <p>8-2 選抜方法と選抜体制</p> <p>入学者選抜は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、本学が定める入学者選抜試験により実施する。本学部が求める知識、技能、能力、態度、興味、意欲等を多様な角度から評価し、さらには受験生のニーズに応えるために、一般入試A(前期)では3科目型(同一配点方式及び傾斜配点方式)と2科目型を実施する。一般入試B(中期)では3科目型と2科目型を実施する。他にも一般入試C(後期)、一般入試D(大学入試センター試験利用型)、公募制推薦入試(前期及び後期)ではスタンダード型に加え、高得点科目重視型を実施する。また<u>グローバル入試(AO入試)</u>、附属高校の推薦入試、社会人特別選抜入試及び外国人留学生入試も実施する。<u>外国人留学生の受け入れにあたっては、日本語での授業が理解できるレベルが必要であることから、出願資格は日本留学試験(EJU)日本語(記述問題を含む)で230点以上を取得している者とする。</u></p> | <p>(38ページ)</p> <p>8-2 選抜方法と選抜体制</p> <p>入学者選抜は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、本学が定める入学者選抜試験により実施する。本学部が求める知識、技能、能力、態度、興味、意欲等を多様な角度から評価し、さらには受験生のニーズに応えるために、一般入試A(前期)では3科目型(同一配点方式及び傾斜配点方式)と2科目型を実施する。一般入試B(中期)では3科目型と2科目型を実施する。他にも一般入試C(後期)、一般入試D(大学入試センター試験利用型)、公募制推薦入試(前期及び後期)ではスタンダード型に加え、高得点科目重視型を実施する。またAO入試、附属高校の推薦入試、社会人特別選抜入試及び外国人留学生入試も実施する。</p> |
| <p>(40ページ)</p> <p>○ <u>第1期生(令和2年度)受入れのための実施案</u> (出題範囲は※参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル入試(AO試) ・外国留学生入試 <p style="margin-left: 40px;">試験科目：<u>書類審査・日本語での面接</u> (<u>小論文を含む</u>)</p> <p style="margin-left: 40px;">募集人員：若干名</p> | <p>(39ページ)</p> <p>○ <u>第1期生(平成32年度)受入れのための実施案</u> (出題範囲は※参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>AO入試(英語重視型入試)</u> ・外国留学生入試 <p style="margin-left: 40px;">試験科目：<u>書類審査・面接</u></p> <p style="margin-left: 40px;">募集人員：若干名</p> |

9. <共通教育科目の社会科学科目が不十分>

共通教育科目において、社会科学科目の開講数が人文科学科目と比較して少なく内容も希薄であるため、開講数や内容を改めるか、理由を合理的に説明すること。

(対応)

共通教育科目は、全学統一の方針に則って、「基礎教育科目群」「ジェンダー科目群」「キャリアデザイン科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」及び「初年次ゼミ」の6つの群から編成され、合計153科目を開講しますが、「基礎教養科目群」を構成する人文科学科目は26科目、社会科学科目は20科目、自然科学科目は12科目、国際理解科目は6科目、現代トピック科目は5科目の開講を予定しておりました。今回、その中で社会科学科目の開講科目数が人文科学科目に比べて少なく内容も希薄であるとのことご意見を真摯に受け止め、まず即時的な対応としまして、令和2年4月から社会科学科目に新たに4科目（「世界の大学事情」「現代世界の教育」「情報化と教育」及び「女性と子どものヘルスケア」）を増やし、開講科目数を24科目にするとともに、併行して共通教育科目の在り方と開講科目（科目名・内容・科目数）等について、検討を行ってまいります。その結論につきましては、本学では大学基準協会による第3期目の認証（大学）評価を令和5年度に受けることにしているため、それまでに改善に向けた結論が導き出せるよう全学的に取り組んでまいります。

他方で、本学部の人材育成の方針には、「幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し」というものもありますので、必ずしも、社会科学科目だけの知識にとどまらず、歴史や文学、音楽や芸術、工学や化学、生活や健康・スポーツなど、幅広い教養を身に付けて欲しいと考えています。

なお本学部の学年進行中に共通教育科目の科目数や内容に変更が生じることになった場合でも、既に入学している学生に対しては、共通教育科目の履修を1年次前期又は後期に履修することを推奨していますが、本学の共通教育科目は1～4年次の全学年・全学期にわたって開講することを基本としていますことから、履修は可能となります。

令和2年4月に追加開講する4科目は、以下のとおりです。

「世界の大学事情」

配当年次：1前・後

単位数、必・選の別：2単位 選択

授業形態：講義

教員等の配置：兼1（兼任教授）

授業科目の概要：

社会制度としての大学やそで行われる教育について考察を深めるため、日本を含め、先進国を中心に数カ国を取り上げ、大学をめぐる状況を紹介し、解説するとともに、社会における高等教育の意味づけや課題について考える。

まず、各国における大学発展の歴史や進学率上昇といった変化が生じた社会的背景、変化への対応やそれに伴う課題などについて資料・データを紹介し、解説していく。さらに、OECDや文部科学省などの数量的データを中心に、ここ四半世紀における大学進学状況の変化と、今日の高等教育の大きな流れ及び課題を把握できるようにする。

「現代世界の教育」

配当年次：1前・後

単位数、必・選の別：2単位 選択

授業形態：講義

教員等の配置：兼1（兼任准教授）

授業科目の概要：

教育実践の視点から、現代世界の主な教育事情に注目し、それらにみられる特徴を明らかにし、世界の動向を知ることによって、日本の教育の課題に

について考える。

主に、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの国や地域の教育事情について、映像や資料をもとに進める概説とグループによる討論や活動を組み合わせて、世界の教育が有する世界観・教育観の多様性や背景を理解するとともに、日本の教育との違いを明らかにすることによって幅広い視野で物事を考えることができる力を養う。

「情報化と教育」

配当年次：1前・後

単位数、必・選の別：2単位 選択

授業形態：講義

教員等の配置：兼1（兼任教授）

授業科目の概要：

現代社会は、科学技術（情報化）の進展に伴い、法令や制度（仕組み）だけでなく、社会通念も大きく変わってきた。インターネットの普及・活用、AIをはじめとした技術革新が拍車をかけ、技術や経済だけでなく、教育や文化においても大きな変化をもたらしている。その一方で、教育やメディア（情報）は、このような変革の推進力として利用されてきた歴史がある。その歴史を振り返るとともに、情報化が進む現代社会が直面している諸課題について考えるとともに、(1) 教育の歴史や教育の新しい流れについて理解を深める。(2) AIをはじめとしたイノベーションに伴う諸課題について理解を深める。(3) 情報化（科学技術の進展）に伴う諸課題（AIとの共存、個人情報保護と情報公開など）について、自らの考えを明確にできるよう、グループ討議や自主研究を行う中で多様な考えに接し、思考を深め、表現する力や協働的な課題解決の姿勢を養う。

「女性と子どものヘルスケア」※オムニバス方式による授業

担当者：兼任教授、兼任准教授 1前・後 選択 2単位

授業科目の概要：

自らの健康に関心を持つことに加え、女性の健康に関連する社会問題に関心を持ち、子どもがどのように成長し、どんな身体的特徴を持っているかを考えることは女性のライフサイクルの中で重要な課題の一つである。女性のヘルスケアについては、思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、さらに健康増進や疾病予防のためのセルフケアについて考える。また、子どものヘルスケアに関しては、子どもの成長に伴う身体的特徴、病気や事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケア方法、さらに近年、社会問題となっている子どもの虐待と権利についても考察する。

(新旧対照表) 基本計画書 (2ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| 教育課程 開設する授業科目の総数 講義180科目 演習83科目 実験・実習16科目 計279科目 | 教育課程 開設する授業科目の総数 講義176科目 演習83科目 実験・実習16科目 計275科目 |
| 教員組織の概要 新設分 経営学部 経営学科 兼任教員等 125人 (89) | 教員組織の概要 新設分 経営学部 経営学科 兼任教員等 120人 (84) |

(新旧対照表) 教育課程等の概要 (1 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|--|
| 共通教育科目 基礎教養科目群 社会科学科目 <u>世界の大学事情</u> 1前・後 選択 2 講義○ 兼1 <u>現代世界の教育</u> 1前・後 選択 2 講義○ 兼1 <u>情報化と教育</u> 1前・後 選択 2 講義○ 兼1 <u>女性と子どものヘルスケア</u> 1前・後 選択 2 講義○ 兼2 <u>備考 オムニバス方式</u> | 共通教育科目 基礎教養科目群 社会科学科目 (追加) (追加) (追加) (追加) |

(新旧対照表) 授業科目の概要 (7 ページ)

| 新 | 旧 |
|---|------|
| 共通教育科目 基礎教養科目群 社会科学科目 授業科目の名称： <u>世界の大学事情</u> 講義等の内容 <u>社会制度としての大学やそこで行われる教育について考察を深めるため、日本を含め、先進国を中心に数カ国を取り上げ、大学をめぐる状況を紹介します。解説するとともに、社会における高等教育の意味づけや課題について考える。</u> <u>まず、各国における大学発展の歴史や進学率上昇といった変化が生じた社会的背景、変化への対応やそれに伴う課題などについて資料・データを紹介します。解説していく。</u> <u>さらに、OECDや文部科学省などの数量的データを中心にして、ここ四半世紀における大学進学状況の変化と、今日の高等教育の大きな流れ及び課題を把握できるようにする。</u> 備考 | (追加) |
| 授業科目の名称： <u>現代世界の教育</u> 講義等の内容 <u>教育実践の視点から、現代世界の主な教育事情に注目し、それらにみられる特徴を明らかにし、世界の動向を知ることによって、日本の教育の課題について考える。</u> <u>主に、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの国や地域の教育事情について、映像や資料をもとに進める概説とグループによる討論や活動を組み合わせて、世界の教育が有する世界観・教育観の多様性や背景を理解するとともに、日本の教育との違いを明らかにすることによって幅広い視野で物事を考えることができる力を養う。</u> 備考 | (追加) |

(新旧対照表) 授業科目の概要 (8ページ)

| 新 | 旧 |
|--|------|
| <p>授業科目の名称：<u>情報化と教育</u> 講義等の内容</p> <p><u>現代社会は、科学技術（情報化）の進展に伴い、法令や制度（仕組み）だけでなく、社会通念も大きく変わってきた。インターネットの普及・活用、AIをはじめとした技術革新が拍車をかけ、技術や経済だけでなく、教育や文化においても大きな変化をもたらしている。その一方で、教育やメディア（情報）は、このような変革の推進力として利用されてきた歴史がある。その歴史を振り返るとともに、情報化が進む現代社会が直面している諸課題について考えるとともに、(1) 教育の歴史や教育の新しい流れについて理解を深める。(2) AIをはじめとしたイノベーションに伴う諸課題について理解を深める。(3) 情報化（科学技術の進展）に伴う諸課題（AIとの共存、個人情報保護と情報公開など）について、自らの考えを明確にできるよう、グループ討議や自主研究を行う中で多様な考えに接し、思考を深め、表現する力や協働的な課題解決の姿勢を養う。</u></p> <p>備考</p> | (追加) |
| <p>授業科目の名称：<u>女性と子どものヘルスケア</u> 講義等の内容</p> <p><u>自らの健康に関心を持つことに加え、女性の健康に関連する社会問題に関心を持ち、子どもがどのように成長し、どんな身体的特徴を持っているかを考えることは女性のライフサイクルの中で重要な課題の一つである。女性のヘルスケアについては、思春期から老年期までの女性に特有な健康課題、さらに健康増進や疾病予防のためのセルフケアについて考える。また、子どものヘルスケアに関しては、子どもの成長に伴う身体的特徴、病気や事故の予防のための手立てや対策、罹りやすい病気や症状に対するケア方法、さらに近年、社会問題となっている子どもの虐待と権利についても考察する。</u></p> <p>備考 オムニバス方式</p> | (追加) |

(新旧対照表) 学則 (25ページ)

| 新 | 旧 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|------|-----|----|----|----|----|---------|--|--|--|--------|--|--|--|-------------------------------|--|---|--|--|--|---|--|--|------|-----|--|----|----|----|---------|--|--|--|--------|--|--|--|-------------------------------|--|---|--|--|--|---|--|
| <p>(25ページ) 別表第1 共通教育科目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">授業科目</th> <th colspan="2">単位数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎教養科目群</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会科学科目</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>差別と暴力のない世界をめざして カウンセリングの実際</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 授業科目 | 単位数 | | 備考 | 必修 | 選択 | 基礎教養科目群 | | | | 社会科学科目 | | | | 差別と暴力のない世界をめざして カウンセリングの実際 | | 2 | | | | 2 | | <p>(24ページ) 別表第1 共通教育科目</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">授業科目</th> <th colspan="2">単位数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>必修</th> <th>選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎教養科目群</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会科学科目</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>差別と暴力のない世界をめざして カウンセリングの実際</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | 授業科目 | 単位数 | | 備考 | 必修 | 選択 | 基礎教養科目群 | | | | 社会科学科目 | | | | 差別と暴力のない世界をめざして カウンセリングの実際 | | 2 | | | | 2 | |
| 授業科目 | | 単位数 | | | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 必修 | 選択 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎教養科目群 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会科学科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 差別と暴力のない世界をめざして カウンセリングの実際 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業科目 | 単位数 | | 備考 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 必修 | 選択 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 基礎教養科目群 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 社会科学科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 差別と暴力のない世界をめざして カウンセリングの実際 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 新 | | | | 旧 | | | |
|----------------|-----|----|----|----------------|-----|----|----|
| 授業科目 | 単位数 | | 備考 | 授業科目 | 単位数 | | 備考 |
| | 必修 | 選択 | | | 必修 | 選択 | |
| カウンセリングスキル | | 2 | | カウンセリングスキル | | 2 | |
| 実践カウンセリング | | 2 | | 実践カウンセリング | | 2 | |
| 生涯福祉論 | | 2 | | 生涯福祉論 | | 2 | |
| 社会福祉とボランティア | | 2 | | 社会福祉とボランティア | | 2 | |
| 福祉レクリエーションの実際 | | 2 | | 福祉レクリエーションの実際 | | 2 | |
| 子育てと家族関係 | | 2 | | 子育てと家族関係 | | 2 | |
| 「ふつう」を考える社会学 | | 2 | | 「ふつう」を考える社会学 | | 2 | |
| 子育てと母性の気づき | | 2 | | 子育てと母性の気づき | | 2 | |
| 現代社会と憲法 | | 2 | | 現代社会と憲法 | | 2 | |
| 外国から見た日本社会のしくみ | | 2 | | 外国から見た日本社会のしくみ | | 2 | |
| 都市形成のあゆみと都市生活 | | 2 | | 都市形成のあゆみと都市生活 | | 2 | |
| 消費者生活論 | | 2 | | 消費者生活論 | | 2 | |
| 日本経済のしくみ | | 2 | | 日本経済のしくみ | | 2 | |
| 英語で学ぶやさしい経済学 | | 2 | | 英語で学ぶやさしい経済学 | | 2 | |
| 英語で学ぶお金の知識 | | 2 | | 英語で学ぶお金の知識 | | 2 | |
| 我々のくらしと日本の産業 | | 2 | | 我々のくらしと日本の産業 | | 2 | |
| 教養としての法律 | | 2 | | 教養としての法律 | | 2 | |
| 暮らしと法律 | | 2 | | 暮らしと法律 | | 2 | |
| 世界の大学事情 | | 2 | | (追加) | | | |
| 現代世界の教育 | | 2 | | (追加) | | | |
| 情報化と教育 | | 2 | | (追加) | | | |
| 女性と子どものヘルスケア | | 2 | | (追加) | | | |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (14・18ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(14ページ)</p> <p>「共通教育科目」は、科目の性格によって6つの群（「基礎教養科目群」「ジェンダー科目群」「キャリアデザイン科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」及び「初年次ゼミ」）に分かれ、計157科目・272単位（全て選択科目）を開講する。</p> <p>○「共通教育科目」の開講科目・単位数（開講科目はすべて選択科目）</p> <p>基礎教養科目 社会科学科目 24科目・48単位 合計 157科目・272単位</p> | <p>(14ページ)</p> <p>「共通教育科目」は、科目の性格によって6つの群（「基礎教養科目群」「ジェンダー科目群」「キャリアデザイン科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」及び「初年次ゼミ」）に分かれ、計153科目・264単位（全て選択科目）を開講する。</p> <p>○「共通教育科目」の開講科目・単位数（開講科目はすべて選択科目）</p> <p>基礎教養科目 社会科学科目 20科目・40単位 合計 153科目・264単位</p> |
| <p>(18ページ)</p> <p>○教育課程編成の区分と開講科目数、単位数</p> <p>共通教育科目 開講科目数 必修0 選択157 計157 単位数 必修0 選択272 計272</p> | <p>(17ページ)</p> <p>○教育課程編成の区分と開講科目数、単位数</p> <p>共通教育科目 開講科目数 必修0 選択153 計153 単位数 必修0 選択264 計264</p> |

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (14・17・19・26ページ)

| 新 | 旧 |
|--|--|
| <p>(19ページ)</p> <p>「共通教育科目」 開講科目数は<u>157科目</u>で、本学では既設の学部の学科から少なくとも複数名の専任教員が共通教育科目を担当するルールになっていることから、本学部からも5人の専任教員(教授3人、講師1人、<u>助教1人</u>)が、1科目乃至2科目を担当する。</p> <p>その科目は、基礎教養科目群のうち人文科学科目の「環境心理学入門」に専任教員が1人、社会科学科目の「教養としての法律」「暮らしと法律」に専任教員が1人、現代トピック科目の「女性のためのマーケティング」に専任教員が1人、キャリアデザイン科目群のうち「<u>キャリアビジョンと人物評価</u>」に専任教員が1人、初年次ゼミの「<u>学び発見ゼミ</u>」に専任教員が1人の6科目であり、<u>他の151科目には兼任教員38人、兼任教員64人の計102人</u>が担当する。</p> <p style="text-align: center;">註：上記は、他の審査意見及び専任教員資格審査の結果を踏まえた変更部分を含む。</p> | <p>(19ページ)</p> <p>「共通教育科目」 開講科目数は<u>153科目</u>で、本学では既設の学部の学科から少なくとも複数名の専任教員が共通教育科目を担当するルールになっていることから、本学部からも5人の専任教員(教授3人、<u>准教授1人</u>、講師1人)が、1科目乃至2科目を担当する。</p> <p>その科目は、基礎教養科目群のうち人文科学科目の「環境心理学入門」に専任教員が1人、社会科学科目の「教養としての法律」「暮らしと法律」に専任教員が1人、現代トピック科目の「女性のためのマーケティング」に専任教員が1人、キャリアデザイン科目群のうち「<u>就活リテラシー</u>」に専任教員が1人、初年次ゼミの「<u>学び発見ゼミ</u>」に専任教員が1人の6科目であり、<u>他の147科目には兼任教員33人、兼任教員64人の計97人</u>が担当する。</p> |
| <p>(27ページ)</p> <p>6-6 履修すべき科目等と卒業要件 (1) 履修すべき科目区分及び単位数 「共通教育科目」 開講する<u>157科目・272単位</u>のうち、以下の履修要件に従い、合計6科目・16単位以上を修得しなければならない。 ・基礎教養科目群の人文科学科目(26科目・47単位)及び<u>社会科学科目(24科目・48単位)</u>の中から1科目・2単位以上</p> | <p>(26ページ)</p> <p>6-6 履修すべき科目等と卒業要件 (1) 履修すべき科目区分及び単位数 「共通教育科目」 開講する<u>153科目・264単位</u>のうち、以下の履修要件に従い、合計6科目・16単位以上を修得しなければならない。 ・基礎教養科目群の人文科学科目(26科目・47単位)及び<u>社会科学科目(20科目・40単位)</u>の中から1科目・2単位以上</p> |

(新旧対照表) 教員名簿[教員の氏名等] (3・4ページ)

| 新 | 旧 |
|---|---|
| <p>(3ページ)</p> <p>「世界の大学事情」の担当者 ③ <u>兼任 教授 安東 由則</u></p> <p>「情報化と教育」の担当者 ④ <u>兼任 教授 伊藤 博章</u></p> <p>(4ページ)</p> <p>「現代世界の教育」の担当者 ⑥ <u>兼任 准教授 楠山 研</u></p> <p>「女性と子どものヘルスケア」の担当者 ⑤ <u>兼任 教授 藤原千恵子</u> ⑦ <u>兼任 准教授 本間 裕子</u></p> | <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> <p>(追加)</p> |